

日本水泳連盟
機関紙

水泳

第 1 1 1 号
昭和 31 年 7 月

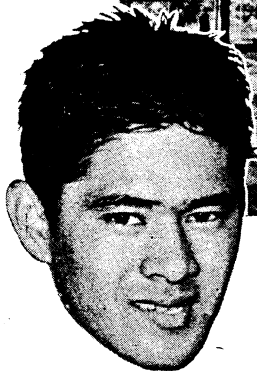
出



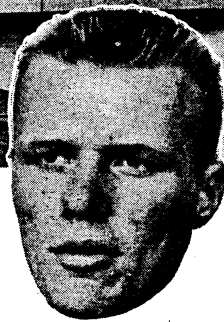
G. Tumpek



J. Henricks



Y. Oyakawa



G. Breen



S. M. Rose

No. 111

“SUIEI”

July 1956

NIPPON SUIEI RENMEI

(Amateur Swimming Federation of Japan)

世界記録

(1956-6-1現在)

オリンピック記録

日本記録

(1956-1-1現在)

男 子

| | | | | | | |
|----------|----------------|---------|---------------|---------|----------|---------|
| 100米自由形 | R. クリーブランド (米) | 54.8 | C. スコールズ (米) | 57.1 | 谷 訥 | 56.4 |
| 200米自由形 | J. ウォードロップ (英) | 2:03.4 | | | 鈴木 弘 | 2:06.8 |
| 400米自由形 | F. コ ン ノ (米) | 4:26.7 | J. ボワトオ (仏) | 4:30.7 | 古橋 広之進 | 4:33.0 |
| 800米自由形 | F. コ ン ノ (米) | 9:30.7 | | | 古橋 広之進 | 9:35.5 |
| 1500米自由形 | G. ブ リ ー ン (米) | 18:05.9 | F. コ ン ノ (米) | 18:30.0 | 古橋 広之進 | 18:19.0 |
| 100米背泳 | G. ボ ゾ ン (仏) | 1:02.1 | Y. オヤカワ (米) | 1:05.4 | 長谷 景治 | 1:05.8 |
| 200米背泳 | G. ボ ゾ ン (仏) | 2:18.3 | | | 長谷 景治 | 2:25.2 |
| 100米平泳 | 古 川 勝 (日) | 1:08.2 | | | 木村 基 | 1:10.4 |
| 200米平泳 | 古 川 勝 (日) | 2:31.0 | J. デーヴィス (豪) | 2:34.4 | 古川 勝 | 2:33.7 |
| 100米バタ | A. ウイギンス (米) | 1:01.5 | | | 石本 隆 | 1:03.4 |
| 200米バタ | W. ヨーシック (米) | 2:16.7 | | | 石本 隆 | 2:23.8 |
| 800米継泳 | エール大 (米) | 8:29.4 | アメリカ | 8:31.1 | 日 本 | 8:33.5 |
| | (ムーア, マックレーン) | | (ムーア, ウールジイ) | | (鈴木, 浜口) | |
| | (シエフ, トーマン) | | (コンノ, マックレーン) | | (後藤, 谷川) | |
| 400米混継泳 | 日 本 | 4:15.7 | | | 日 本 | 4:15.7 |
| | (長谷, 古川) | | | | (長谷, 古川) | |
| | (石本, 古賀) | | | | (石本, 古賀) | |

女 子

| | | | | | | |
|---------|-----------------|--------|-----------------|--------|----------|--------|
| 100米自由形 | C. ガステラース (和) | 1:04.0 | J. テメス (洪) | 1:05.5 | 神野 眸 | 1:09.0 |
| 400米自由形 | R. ベーガー (丁) | 5:00.1 | V. ギエンゲ (洪) | 5:12.1 | 佐藤 嬉子 | 5:28.2 |
| 100米背泳 | C. キント (和) | 1:10.9 | G. ウイレマ (和) | 1:13.8 | 森前 みどり | 1:21.6 |
| 200米平泳 | ナ シ | | E. セッケリー (洪) | 2:51.7 | 坂本 和子 | 3:01.4 |
| 100米バタ | A. フォールビー (和) | 1:11.9 | | | 寺垣内 達代 | 1:22.6 |
| 400米継泳 | ハンガリー | 4:24.4 | ハンガリー | 4:24.4 | 奈良 県 | 4:44.0 |
| | (I. ノバーク, テメス) | | (I. ノバーク, テメス) | | (田村, 宮部) | |
| | (E. ノバーク, ツオーケ) | | (E. ノバーク, ツオーケ) | | (佐藤, 新子) | |
| 400米混継泳 | ハンガリー | 4:57.8 | | | 大阪 府 | 5:31.8 |
| | (パヨール, E.セッケリー) | | | | (森前, 青木) | |
| | (R.セッケリー, ツオーケ) | | | | (浦畑, 山下) | |

目

次

| | | |
|----------------------------|--------|----|
| 1956年国際水連理事會に使いして | 安部 輝太郎 | 2 |
| オリンピックのために | 小池 礼三 | 5 |
| オリンピック強化合宿日記 | 太田 光雄 | 6 |
| 〃 の別府合宿 | 古橋 広之進 | 8 |
| 〃 飛込合宿練習 | 小柳 富男 | 10 |
| 〃 女子合宿練習会 | 坂口 文子 | 11 |
| 水泳指導者講習会及び検定試験を顧みて | 多治見 祐孝 | 12 |
| 早慶水上観戦記 | 倉橋 範彦 | 14 |
| 明・立・日三大学水上観戦記 | 古賀 伸一郎 | 15 |
| 日本大学対中央大学対抗水上競技 | 下坂 篤 | 18 |
| シンクロ・スイミング講習会と競技会の報告 | 串田 正夫 | 19 |
| 30年前の話 | 宮畑 虎彦 | 20 |
| エールでの練習 | 長沢 二郎 | 26 |
| 動く水球について | 鶴田 武 | 28 |
| シーズン中の栄養献立 | 三枝 美貴子 | 30 |
| 海外ニュース | 記録委員会 | 34 |

1956年国際水連理事会に使いして

安部輝太郎

昭和27年ヘルシンキ・オリンピックの時に国際水連(F.I.N.A.)の理事に再選(昭和11年、ベルリン大会の時にも選任されましたが、当時は種々の理由で理事会には出席できませんでした)されてから昭和28年のオランダに於ける理事会と29年のイタリアに於ける理事会には参会しましたが、昭和30年のパリーの理事会には同年春マニラに於けるアジア大会に行った関係上、遠慮等もあって欠席しました。

一番重要なオリンピックプール水温の問題

所がこのパリー理事会で如何した訳か、飛んでもない決定が行われたのです。と云うのはメルボルンのオリンピックでは「プール水温は最高22°Cを越えるべからず又1960年のローマ・オリンピックでは水温は20°C乃至22°Cたるべし」と云うのです。

一体誰がこんな馬鹿気た決定へと会議を導いたのか、私は解釈に苦んで、啞然とした次第でした。

此处で一寸説明を加えますと昭和7年ロサンゼルス大会の水温が大體25°C乃至28°Cでベルリン大会は大體25°Cであったので、最高22°Cでは日本や米国、まして比島の選手たちは飛魚どころか冷凍のスケソウダラになってしまいそうです。よって早速F.I.N.A.本部へ理事会決議を再考するよう抗議を申入ると同時に、私が個人的にも親しい各国の主立った連中に対して各々行動を起すよう連絡を取りました。

その結果、殆んど凡ての国から私が主張した通り最低24°Cたるべしと云う線に同調して貰いました。これ等の国々の中には東南アジアは素よりソ連、ハンガリー、米国もありで、反対意見が来たのは南阿位なもので、一番反対しそうなスウェーデンですら賛成でした。一方当の主催国であるオーストラリアも24°Cに賛成であるのに、独り南阿の反対は甚だ強硬で、最適は20°C~22°Cだと云っておりました。

こういう空気のF.I.N.A.理事会へ乗り込んで最低24°Cを確保しようとするのが私の目的であり、使命です。5月26日羽田発スイスに向け出発しました。

(中略)

ローザンヌに到着

スイスは相変わらずキレイで、日本の街ならゴミタメが置いてある歩道と車道の境は全部草花で飾られてあり、街頭の柱や駅のプラットフォームの柱等にも中段に草花が植えてあると云った具合です。然しそうした眺めも度々来てはそれ程に感じませんが、何時見ても目ザワリなのは老若のアベックの多いことです。当方が独りだからでしょうか。

そこへ行くとレマン湖に羽の切っていない白鳥が群遊していたり、小鳥がとても多く、特に雀は屋外レストランのテーブルの上まで遊びに来て気持が和やかになります。尤も日本程雀が人を恐れる国は一寸ないようです。日本のヤキトリの普及度はたいしたものだと云えるでしょう。

ローザンヌに着いたのが29日でしたが、既にF.I.N.A.会長のネグリ氏が先着しており、2人でアルゼンチンと日本が1,2着だと笑い合いました。彼氏は必ず奥さん同伴なのに今度は1人です。奥さんとは聞いたらず子供が生まれた由です。先日AAU(米国体協)から1955年度水泳功労個人賞(団体賞は日本水連が授賞)を贈られた時、大勢の前で長男出生を祝われて大いにテレタ由、67才で長男出生とは恐れ入りました。

食事を共にし乍らメルボルン大会の水温の問題に触れて見たら「そうかね22°Cじゃ冷過ぎるかね、他の国もモット温い方がよいて、とにかくよく話し合うや」てな具合でした。

そのうちにリッター副会長(米)が到着しました。水温問題はリッター氏の方から触れてきました。「25°Cでは少し高過ぎないかな、22°Cと云うのは最低だろう」おとぼけでないよ、リッター氏は昨年議長をつとめ最高22°Cを通した張本人じやないか……これで温度引上げに成功する自信を得たが、察する所、先生アメリカで大分吊し上げられたのじやないかと思えます。

米国はメルボルンに前例にない張り切り方で、飛行機85人乗7台チャーター済み、全米水上はオハイオ州アクロンで7月末、更に8月10日デトロイトでオリンピック最終予選会を行い、その後合宿練習をや

って11月1日～15日頃迄にメルボルンに乗込むと云う話です。

兎角する内にライキ（洪）リンキスト（芬）ピコネル（西）フアン（英）デラーヴ（白）デヴリー（和）ルモアン（仏）と続々参集しました。

オメガ自動計時器

それから打揃ってオメガの工場を見学しました。オメガ工場へ行く前に近くの国立体育指導者養成所に案内されましたが、設備が漸新なのに感心、丁度スポーツ記者練成中だったのを見ました。スポーツ記事を書くのは自ら競技を行って見るべきだと云うわけで、老若の記者諸君がフットボールやハンドボールを盛んにやっていました。これは日本もぜひやったらよいと思います。知り合いの誰彼がフーフー云って駆け廻らされている図は想像するだけでも愉快じやありませんか。

この総主事は国際スキー連盟の名誉主事をしているカッシュ氏で、私との間でオリンピック大会における猪谷選手の話が出ました。彼曰くあの判定は変るべきではない。ドノ写真を見ても反則だったと云う証拠になるものはなかった。旗門監察員は「信じ難い位だがこうやって旗門を通過した」と云っていましたが、その「こうやって」と云う身振りは、私が猪谷選手から直接見聞した姿勢と全く同じものでした。

このプールで問題のオメガ自動計時器を見ましたが、「これなら使える」と云う感じがしました。

我々が日本水連でやっていたように、オメガでも何回も作り直してこれが決定になった由で、大体方式は親時計にオメガのストップ・ウォッチを使



左からピコネル（西）、ネグリ（ア）デヴリー（和）頭タケ、ブランド（オメガ社長）黒帽、リッター（米）ザルフオア（瑞）、ルモアン（仏）、デラーヴ（白）

い、6ボルト120アンペアの電池によって1/100秒刻みのテイッカーを動かし、各コースの窓にはストローク、カウンター式（タクシーのメーターのようなあれです）にタイムを表すと云う構想のものです。作動はよく、故障に対する考慮も一応行き届いていました。1台が8コース分で、これを3台使うのですが、着順に関してはリッター式の着順判定器と電氣的に連動させることになっており、この方も一応使えいものになると見受けました。

オメガの会社に出掛ける前に、時計をお土産にしてくれるかも知れないから、時計を持たずに行こうじやないかと云う虫のよい相談をしました。

流石にスイスはジュネーブと云いローザンヌと云い、時計屋の多いことは正に日本のパチンコ屋以上で、東京のキャバレーの数にも匹敵するでしょう。エッ？「そんなことあオメガ云わなくても先刻ごロンジンですって」あゝそうでしたかすみません。

工場へ案内してくれたブランド社長は34,5にしか見えない若さで、英仏語に堪能な紳士で、スイスだからよいようなものの、東京では到底身が持てないようなハンサムボーイでした。時計ですか。呉れませんでしたよ。

愈々理事会開く

理事会は6月1日午前9時から午後6時迄ミッチリやりました。何れ正式議事録は「水泳」誌上に報告しますが以下要点だけ御知らせします。

型の如く議事進行、先ず世界記録を別表（40頁参照）の通り公認しました。



問題の水温はフタを開いて見ると、低温度主張の本尊は白、和、西、仏、洪等の水球党でありました。まさかフランスや洪牙利が敵に廻るとは思いませんでした。過去のオリンピックの例を挙げて、高温度を主張しましたが今度はインドアだから等云って、前回決定に立てこもろうとしましたから、「頭の上に屋根があろうがなかろうが、そんなことが何の関係があるか、大体22°C最高なんて云う決定は成っていない、」と大分激論を交し、遂に投票の結果、22°C組が前記5ヶ国、最低23°C組が日、英、米、瑞芬の5ヶ国で同票となり、議長が23°Cに入れて、最低23°C組が勝ちました。最高温度は24°Cと25°Cで争い、結局25度に決りました。これで危く私の目的が達したわけで、あとは主催国と話しを固めて、24-5度にすればよいわけです。お蔭で水球国からヒドクうらまれました。

次で各国から提案されている規則変更案に対する審議に入り、大部分は専門委員会附托となり、競泳飛込、水球の各委員会では検討の上、メルボルンに於ける本理事会に報告を受け、その上でF.I.N.A総会にかけることに決まりました。

飛込のメルボルンオリンピック決勝は12人で行うことに決定しました。

世界記録を長水路一本に

それから理事会より総会への提案として「世界記録は長水路に限る」と云う件を提出し、初めは理事会から競泳委員会に諮問しようとするのを、直接総会への提案とさせることに成功しました。この委員会の私は名誉主事ですが、作戦もあって、直接総会にブツつけることにしたのです。これで私たちが1932年ロサンゼルスの時以来願っていた事が、恐らくメルボルンで実を結ぶことになると思います。序に「淡水に限る」と云う点を出張しましたが、これは遂に却下されてしまいました。余り私の言い分を通し過ぎて理事会の面子如何かと思われる節もあり、これも何れ我々の出張が通ることは明白なので、この件だけ後日に見送ることにしました。というのは各国代表の意見をさぐって見たら賛否ほぼ半ばするように見受けられたからです。

水球申込が締切迄に15ヶ国になったのに対し、フランスが後入をしようとして、一同に蹴られ、ルモアン代表ヒドク不満でした。

午後に入って、リッターから平泳の潜水は本来の平泳でない、規則違反だと大分やかましい議論とな

り、例によって私と洪牙利のライキとで身振りの説明を加えたりして、結局「規則が不備なので、あまり積極的でない限り、垂直方向に搔いても大目に見よう」とゆうことに落付きました。潜水は禁止しようとう提案に対しては、勿論潜水差支えなしということに決りました。

今度の会議に地元で雇い入れた速記者はエラク別嬪さんでみんなニコニコです。昼食の時ネグリ会長が私を指して、俺の子供は赤ん坊だが、この男には22才にもなる娘がいるんだよと云ったら、別嬪さん曰く「アラこの方が22才かと思ったわ」と云ったので私は一杯おごらされました。

翌朝朝食の時、世界記録が長水路だけになればお蔭様で日本も態々25mプールで記録会をやる面倒がなくなったが、君達が賛成しないので塩水記録が残っているから、シーズン終り頃、神宮プールに塩をぶち込んで記録会をやる積りだと言ってやりました。

2日午前10時から続開された理事会は大体昨日から持ち越された事項の整理的審議で、多少モタツキましたが、正午散会となりました。機械計時審判を優先的に扱うことにつき、現行規則では他のオリンピック競技同様、人間の審判員が順位を決定することになっているため、その合法性に多少疑点があるとの意見が出て、念のためもう一度メルボルンに於て総会の前に各国代表を招致してデモンストレーションを行い、その了承を求めた上、機械優先を最終的に確定しようとするに落ち着きました。

これで理事会は終了しましたが、議事は勿論沢山あったんですが、日本に関係の深いことだけ報告して置きます。

理事会が終つて

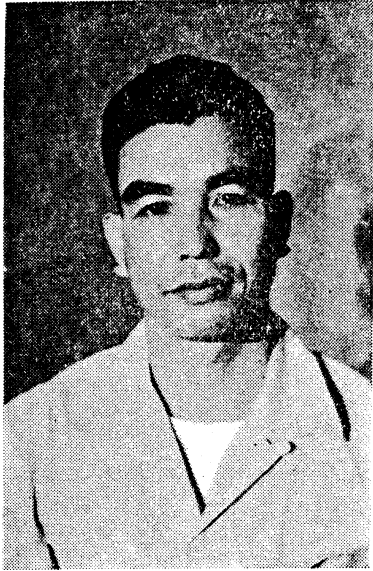
今度の理事会を顧みて一寸変わったことが2つありました。一つは水温問題でソ連が高温説に全面的に賛成で、ハンガリーが驚いた事に、水球のために低温説を固執したことで、ソ連圏と雖も、必ずしも意見が統一していないと云うことです。

これも水球故に低温を主張して、私達をびっくりさせたフランスです。少くとも私たちにはフランスは水球よりも競泳の方が印象が深いのに、フランスにとって水球の方が大切なんでしょうか。それとすれば水球の申込5月1日を逃がして、理事会であわて強硬に後入を試みるなどは、フランス水連の大きなチヨンボだと思えます。

(本文は安部氏のローザンヌよりの通信を抜萃したものです)

オリンピックのために

小池 礼三



メルボルンオリンピックのための準備と云えばそれはヘルシンキオリンピックで敗れた直後から始められたのであってその主なものとしては

対外的には外国選手の招聘，国内では数度に亙る新人層の強化合宿，更に突込んだものとしては中学生の水泳教室，これは直接メルボルンのためのものではないが，中学生の全国通信競技等いろいろ数えられる。中で一番直接的に効果のあったものは今年の日米対抗で勝ったことである。この勝利は，ここ数年苦杯ばかり嘗めさせられて意気消沈の日本の水泳界に回生の力をつけることに役立ったのである。今や日米で勝ったものがオリンピックを制するなどという呑気なことを云っていただける時代ではないが，日米対抗で勝ったことは確かにメルボルンの準備としては，凡ゆる点で効果が大きかったと思う。この上り坂を如何に上手に捉えてメルボルンに直結させるかということが，今年の日本水泳界の眼目である。それにはいよいよオリンピックの年としては，先ず冬，春再度にわたるオリンピック候補の強化合宿，待望の50米宿内プール完成（別府市）等で着々準備はすすめられているが，何んといっても今後の問題として一番大きなものは8月，9月で一応決定した選手の調子を，時期外れの12月にいかに爆発的に発揮させるかということである。

早めのシーズン即ち，アジア大会のように5月頃あったことや9月末から10月上旬の頃までのシーズン終りのレースには多少経験がないではないが，今

度のように丁度シーズンとシーズンの中間に来るといことは初めてのことで，これに対処する物心両面の準備には大いに悩まされるわけであるが，ここで一番大切なことは，シーズン外れであるから大変であるというような観念は，はっきり頭から外してかかることが大切であると思う。地元の豪州ですら早いシーズンであるし，その他の国は全て同じ条件であるのだから，何も日本だけが特別ではないと思って，心理的に不利な条件などと思いつまないことである。それでもそうゆう気持になるには，先ず凡ゆる条件を検討した上で安心立命する必要がある。それ等の一環として，先ず栄養の点では国立栄養研究所の鈴木先生にいろいろ教えを頂き，又医学的な見地からは樋口一成先生のきも入りで，慈恵医科大学の名取教授から練習をして行く過程の筋肉，その他の状態や練習の効果，その逆に練習を中止した場の筋肉の状態や巧懲性の問題等の話をきき，それにプラス吾々の経験というようなことで今後もよいと思われる。凡ゆる話なりをきいて，最終的な結論なり，具体性をもつたスケジュールを作り，納得がつかいたら，真っ直ぐその線に添って進んで行く積りです。今後未だ若干ではありますが，貴重な日時を残しておりますので，皆さんの一寸した思いつきなりを面倒臭さがお聞かせ下さることをお願い致します。

別府の本合宿の時は幸いプールの直ぐ近くに（歩いて2，3分）丁度20名位で一杯になり，環境も静かな三井銀行の三銀荘という寮を三井銀行の好意により，約一ヶ月完全に提供して頂くことになっております。

（メルボルン・オリンピックチーム監督）

オリンピック強化合宿日記

競泳コーチ 太田光雄

4月28日（晴）

予定表の通り、参加人員の大多数が別府市日名子旅館に集合、列車等の都合によって多少遅れる者もあったが、中食後3時からのプールに於ける練習会の開会式頃には不参加者を除いて全員54名が集合した。田畑会長、藤田理事長よりの訓辞後、コーチングスタッフからも練習上の注意があってから待望の練習第1日のスタートが行われた。

（体操） 全員プールサイドで15分、

（練習） 全員 800m ビート 300m ダウン 500m

今年になって始めて泳ぐ者は殆んどないので相当水に馴れている様に見える。宿舎の都合で自由形はひさごホテル、特種目は日名子旅館に分宿となる。

4月29日（晴）

7時に起床と同時に海岸で体操、海風を吸って気持ちが良い。

（午前練習） 1,000m ビート 400m ダウン 600m

（午後練習） 1,000m ビート 400m ダウン 600m

28日と今日とで大体の皆の調子が解ったので、再び練習の組分けをして自由形は相当泳ぎ込んである組、中位、余り泳いでなかった組との3組に分ける。明日から実施。夕食後7時30分から水中写真、過去のオリンピックの成績等の映画を写す。

4月30日（晴）

前2日間を選手の調子を見る期間と定めてあったので、愈々今日から5月3日迄ロングの訓練期間としての練習が始まる。

（午前練習） ロング 1,000m ビート 400m
ダウン 600m

（午後練習） 400m 800m ビート 400m
ダウン 600m

午前は長いのを泳ぎ、午後からはスプリントを加えたロングを行い、皆の参考記録を見る。若手の連中は元気にまかせて中々いい調子で泳ぎ、特に林（日大）等は800mの途中400mを4分56秒で入り、10分13秒で泳いでいる。今年の活躍を約束ずけた様であった。さすがベテランは夏を目標にしてか余り目立ってはいないが、じっくりと泳ぎ時々鋭い泳ぎを見せている。

5月1日（曇、雨）

合宿4日目で選手の食慾は極めて旺盛、食事の時間が待遠しくて大騒ぎである。合宿前より今回の合宿の献立はカロリー計算に基いて調製する様になっていたが、これだけの量では中々足りそうもないので飯の量を少々と食後の果物、牛乳を追加した。

宿舎からプール迄は約2kmであるが、これも練習の1頁と云う訳で、全員徒歩で通ったが、歩き疲れか、なれない為か、膝が痛いと言う者が出たが、大した事はない様だ。只1日2往復で合計8km（2里）は少々歩き過ぎ、午後は久しぶりに雨。

午前練習 ロング 1,000~1,500m ビート 400m
ダウン 600m

午後練習 400m 800m ビート 400m ダウン 600m

新宅、池尻らが大分調子を上げて来た。古川、石本、長谷等はさすがに頑張ると強く、泳ぎも安定していて昨年のベストに近い泳ぎで泳いでいる。この3日間を見ていると種目別には背泳陣と平泳陣は泳ぎと実力は相当充実して来ているが、バタフライは石本1人の感じ、自由形は短中長とも何となく切札がない様で心淋しい。

5月2日（晴）

練習も次第に強くなって競い合う様になって来たので疲労も増して来た様だ。朝7時の起床がつかなくなったらしく一度の呼声では中々起きられない。併し海岸での体操で又再び競技の人となる。

午前練習 ロング 1,000m ビート 400m ダウン 600m

午後練習 200, 800 50×10 ビート 400m ダウン 600m

午後の練習は次第にスプリントを付けるべく移行して行く。今日は50mのダッシュを10回続けて見た。石本等は各回とも33秒で泳ぎ切り、抜群の強さを示している。

自由形の長距離も800mを林10分05秒、池尻10分15秒、坂梨10分17秒、青木、新宅10分18秒の処迄、伸びて来た。

中堅処がこれに続いて調子を上げて来ている。このプールも日本最初の室内50mプールで水質其他申分なく、これだけの大人数の合宿にも割合混んだ感じはしない。併しやはり自由形、特種目と2陣に分

けて交互にやらないと、強化体操まで出来ないのでは時間的には非常に忙しい。

5月3日 (晴)

今日迄で一応ロングによる訓練期間を終る。調子も泳ぎも全般的に伸びているし、病人もなく非常に調子よく合宿が進行している。朝7時の起床から夜9時30分の消灯迄殆んど動いている様な忙しいスケジュールで相当疲れが出て来た様だ。それでも林等は800mを10分を割る程元気で泳いでいる。

午前練習 1000 ビート 400 ダウン 600

午後練習 200 800 (特) 600 50×10 ビート 400
ダウン 400

5月4日 (晴)

今日は1日休養の日で、別府名物の地獄巡りを行う。一同修学旅行の様にのんびりと見物し、高崎山の野生猿まで見学して正午頃帰宿。午後は各自休養、夕食後より演芸会。水泳選手よりも高座へでも立たせたいと思う程美事な芸人もいて楽しい1日を過ぎた。

5月5日 (曇)

今日から合宿の終り迄はスプリント養成の為に、所謂インターバル練習を採り入れた練習を行う。

(午前練習) 400 (中, 長 100m×4 50×4)
(短, 特 100m×3 50×4)
ビート 400 ダウン 600

(午後練習) 200中長(ロング 1,000 100×3 50×4)
短特(ロング 600 100×2 50×4)
ビート 400 ダウン 600

午前、午後共に100mを極めて僅かの間隔(約1分30秒)を置いてやって見たが割合平均したタイムを出している。併しこの平均タイムももっと短縮して、然も10回位やる様にすれば効果はグンと上ると思う。そしてこの練習によってタイムを上るのでなく、今年は今からこの位のキツイ練習をするのだと云う心構を選手に植付けるのが目的でやって見た。シーズン前の練習としては相当こたえるらしい。

5月6日 (晴)

今日は午後より非公式な参考記録会を行う。練習をずっと続けて来て、然もシーズン初めての相当キツイ練習の最後の日で、疲労の一番強い時であったが、この位の練習の後にはこの位のタイムが出ると云う自信をつかんで貰えれば目的に達せられると思う。

(午前練習) 400 中長 (100×4, 50×4)
短特 (100×2, 50×4) ビート 400
ダウン 600

(午後練習) 各人1種目 (中長 100×2, 50×4)
(矩特 100×2, 50×4)

ビート 400 ダウン 600

相当な疲労中であつたが、結果的には皆相当好タイムを記録した。この結果、一線級の選手なら、長距離を除き、10日間もその気になって、みっちり練習すれば、自己の最高に近い処まで行けると云う様な気がした。

優秀なものを拾って見ると、

| | | |
|----------|-----|---------|
| 100m 自由形 | 谷 訥 | 57.4 |
| 200m // | 柳瀬 | 2:14.6 |
| 400m // | 山下 | 4:53.6 |
| 800m // | 林 | 10:03.0 |
| // // | 新宅 | 10:11.4 |
| // // | 山中 | 10:15.2 |
| // // | 大野 | 10:15.2 |
| // // | 坂梨 | 10:01.6 |
| 100m 背 | 長谷 | 1:08.6 |
| // // | 山下 | 1:09.6 |
| 200m 平 | 古川 | 2:41.6 |
| // // | 胡麻鶴 | 2:43.9 |
| // // | 吉村 | 2:44.0 |
| 200m バタ | 石本 | 2:28.6 |
| // // | 増永 | 2:40.4 |

以上の様な相当優秀な記録だった。

尙この日は記録会の前に市主催の選手激励会をプールで行い、夜は体育会主催の夕食会に招待された。

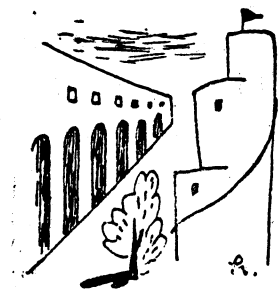
5月7日 (曇, 雨)

合宿最後の日である。予定の通り起床後体操。

(午前練習) 800 ビート 200 ダウン 500(全員)

11.20 解散式

短水路プールの合宿練習と違って、大きなプールを使つての練習は相当充実した練習が出来た。解散に当つての皆の顔には「よし、今年は一丁やるぞ」と云つた様子を見せて皆元気にホームプールに帰つて行った。



オリンピック強化の別府合宿

マネージャー 古橋 広之 進

スポーツ界の誰しものが待ち続ける待望のメルボルン・オリンピック大会は、愈々今年の11月に迫って来た。ヘルシンキ大会で大敗したその日から、メルボルンのその日あるを予期して私達は、勝たんが為のあらゆる準備に没頭して来た。今考えて見ればこの4年間は短くもあり、長くもあった。然し決戦の日を前にして感慨無量である。

この4月に行われた別府温泉プールの合宿も、メルボルン大会で大勝せんが為の強化合宿で、オリンピックの優勝につながる大事な仕上げ練習だったと思う。

その意味から従来にない激しい練習の連続で、コーチングスタッフの力の入れ方も又一入だった。

勿論目に見えて合宿の効果はすぐ現れないにしろ、選手のメルボルンを目指す意気込みは大したもので、成果は充分あげ得たものと信じている。

ベテラン組に若手新人を交えての総数50余人、この中の誰れと誰れがオリンピックの選考に選ばれて、メルボルンの空高く日章旗を翻して呉れるかは知らないが、その大役は立派に果してくれるものと信じていたい。

4月28日正午監督始め選手一同別府に集って10日間の合宿の幕は落された。

練習に先だっの田畑会長の挨拶も何時になく力がこもり、小池督監の顔も真剣だった。

私達は必ずヘルシンキの汚名を取り戻さなくてはならない。然し安閑としていては勝てない。今年に入ってから外国のニュースは、オーストラリアのヘンリックス・チャップマン、それにローズ、又アメリカからはグリーンの大記録を報じている。それにハンガリー、フランス、ロシアと云った国々も決してあなどれない。そうしてみるとメルボルンでも又苦しい闘いをしなくてはならない。

最初の3日間は軽い練習、ほんの水になれる程度のスケジュールだった。それでも最早調子を出しかかった選手すらいた。皆んな例年になく快調なすべり出した。この分だと今年の夏は相当面白い成果があがるだろうと楽しみだ。でも決してシーズンはじめはあてにならない。私達はじっくり構えてメルボ

ルンでの成果を判断しなくてはならない。

朝は全員7時に起床、まとまって軽い体操を15分、7時半朝食、旅館の都合で選手は2組に分れたがよくチームワークを乱さず、こんなに気持ちよく練習のはかどった合宿も珍しい。これは勿論、選手がよく自覚して監督共一心同体になって練習に打込んだ賜もので、喜ばしい事だった。9時からの午前の練習は平均4~5000米のローング・ビート、ダウン合せての練習量だつたと思うが、60人近い選手の人数からしてみれば、相当の練習量ではなかったろうか。

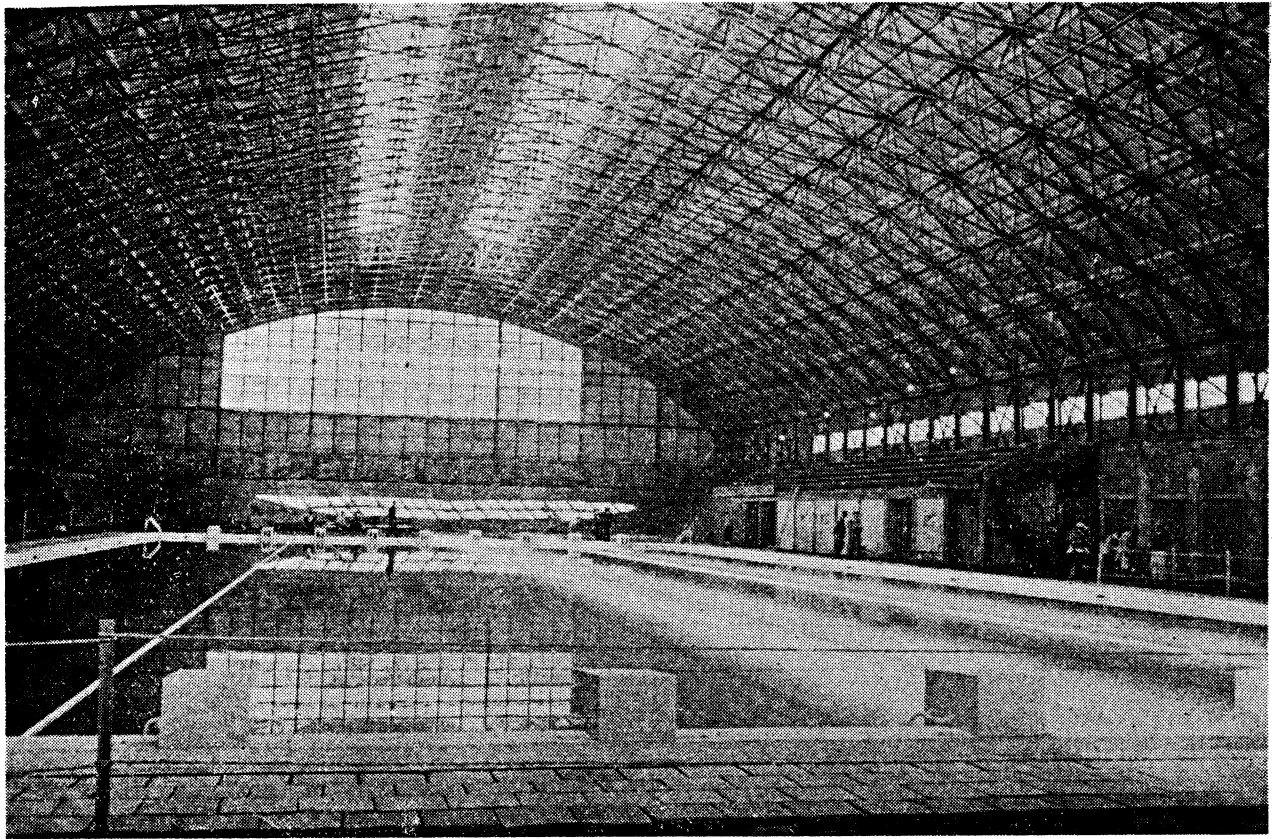
午後10時30分昼食、午後は2時半から練習に入った。この間1時間程度の午睡、これは疲れをいやすのに大いに役立ったと思う。勿論人数の関係で、自由形、特種目と2組に分けて練習時間を決め、夫々1時半から2時間位の割当時間に、午前とは違って従来に見られない激しい練習を積んだ。

特に今回はインターバル練習と称して、各種目ともスピードとスタミナの養成に力を入れた。この練習はま新しいものではなく、戦前から特に日本選手間で行われた激しい練習のことで、戦後兎角忘れかけていた。ところが今後大試合に勝たんがためにはこうした練習が是が非でも必要で、私達はこうした練習が最大の成果をもたらしてくれるものと信じている。

この頃は外国選手もこうした練習法を取り入れ多大の効果をあげている。この練習は要するにどの種目でもスピードをもって泳ぎ抜いてしまう為の基礎練習で、相当苦しい練習に打勝たなくてはならない。今回の合宿はこう云った力の入った練習の連続で、10日間（勿論その間休日があったが）メルボルンを目指すにふさわしいものであった。

この練習でベテラン組はどちらかと云うとあせらず、じっくり泳いでいた様だったが、新人連は練習中も相当頑張って記録をあげて居り何か力強いものを感じた。でもこれといってずば抜けた選手の出ない事は一沫の淋しさを与え、外国の進出に較べもの足りない感じすらする。

この外合宿では、メルボルンの事もあって、選手の食べもの、即ちカロリーと云う点にも充分気をく



別府市営室内プール

ばり、練習量とマッチした食事の研究を行った。この問題は合宿練習のある度に一応研究されて来たが、メルボルンでも大きな問題の一つの様だ。勿論、食物の豊富な国だからそう神経質になる必要はない。

又メルボルン大会は今迄例のない南半球でのオリンピックで、気候が丁度正反対、そんなところにも今後の練習の難しさはある様だが、別府にあんな立派な施設の出来た今日、シーズンオフの練習は思う存分みっちり出来るし、一応練習の悩みは消えたと云える。勿論こうした今後の練習については監督の連中が考える事であって選手はそんな事はかまわず、一生懸命泳いで立派な記録をあげてもらえばよ

い。

もうこの練習を終えればすぐアウトドアでの練習が続けられる。別府で積んだ練習のすべてを基礎に思う存分泳ぎ抜いてもらいたい。そしてメルボルンで勝ってもらいたいのだ。

× × ×
 × × ×
 × × ×

オリンピック強化

飛込合宿練習

ダイビングコーチ 小柳 富男

期 日 昭和31年4月19日～28日（10日間）
場 所 大阪市北区扇町 大阪プール
宿 舎 大阪市北区太幡寺町 大阪郵政会館
監 督 小柳 富男
兼 コーチ

目 的

シーズンオフでたるんだ身体を柔軟体操並びに強化体操にて引き締めるとともに屋外練習の頭初に助走、踏切、板離れ等、飛込の基本をよく身につけてそれを基盤として各自の身体に合った飛込を作り上げて貰いたいためである。

参加選手選衡事情

一応昨年度の全競技会の成績を参考とし、競技会の成績順位にはよらず、国際競技会に出場しても可成りの成績を挙げ得ると思われる者を対称として、3月8日飛込委員会を開催し下記の参加選手を選抜決定した。

参加選手（7名）

男子（4名）
森沢 厚（高見沢電機）馬淵 良（長野電鉄）
馬場 豊（天御津建設）清水磊三（日大OB）
女子（3名）
宮本まさみ（天理大学）弘世初子（相愛短大）
津谷鹿乃子（松蔭短大）

日 課

起床 7.00（体操）朝食 8.00 練習 9.30～12.00
中食 12.30（休養）練習 14.30～17.30 夕食
18.00（体操・マッサージ）就寝 21.30 消燈
22.00

概 要

起床後直ちにプール迄駆足（約500米）、足を強くすると共に、前半の練習においては時間の約半分を

柔軟体操及び強化体操に割き、専ら身体の柔軟性をはかると共に体力をつける事を主眼とした。このため、本年2月頃より準備体操を続けて居た女子に較べ、男子の疲労、筋肉の使い痛みは相当なものであったらしく練習中頃はその極に達していた様であった。然し後半にはすっかり立ち直り、全員積極的に練習を続け、身体の調子もよくなった様だ。

練習中殊に強調したのは助走を必ず一步一步確実に踵から歩く事、最後のステップから踏切の先端には角度を正確に安定して下りる事、及び飛び出しは軽るく出る事等を要求し、選手と共に今迄飛んでいた気持等もよく聞き、お互いに話し合いながら、なるべく無理のない飛込にする様に努力を払った。

アウトシーズンに入ったとはいえ、4月下旬の事とて、前半は気温16～7度、水温16度、後半では気温17～8度、水温16.5度となったが、低温のため充分なる練習は望めないと思われたが、風呂を用意したため予期以上の成果を挙げる事が出来、終る頃には全員助走、踏切、飛び出しについては安定したものをつかんだ様に思われた。今後はそれを基として、数を飛ぶ事によって、空中に於ける動作の機敏さ、空中感覚の把握に進んで行けばよいと思う。今年のシーズンに於ける飛躍を期待を持って見ていたい。

又今後機会ある毎に強化の練習会を開き飛込技術、确实さを増進したいと思っている。

尙、宿舎については大阪水泳協会理事長渡辺四郎氏の御努力により、合宿練習にはもって来いの宿舎設備のある前記場所を使用出来た事も本合宿成功の一因であると思う。

又大阪プール並びに地元水泳関係者の好意に対しても厚く誌上にてお礼を申し上げます。

オリンピック強化女子合宿練習会

坂 口 文 子

4月1日より10日間、白浜温泉プールに於いて女子競泳選手選抜練習会が行われた。参加選手は自由形に神野眸（天理大）佐藤嬉子（同）山下貞子（東洋レーヨン）宮部シズエ（天理大）松田昌子（伊都高）端谷八重子（石川繊維）島田節子（五条高）和田映子（同）大高幸子（伊都高）大宮涼子（愛知淑徳）平泳では青木幸子（九度山中）高松好子（伊都高）矢野迪子（同）青木政代（帝塚山短大）小田切紀子（旭化成）バタフライ 寺垣内達代（帝塚山学院）平谷銀子（五条高）榎本千恵子（伊都高）の19名。

第1日目の団結式には田畑水連会長より激励のお言葉を頂戴して選手一同張り切って練習に入りました。毎日午前午後の2回、種目別3組に分けて交代しながらの練習で方法としては最近各国で行われているインターバル練習法を効果的に行いました。シーズン始めとは云え、この合宿前に早や各地で練習を積んで来て居り佐藤、青木（姉）、寺垣内さん方はシーズン中を思わせる様な泳ぎ振りを見せて居りました。他の選手も前3日間程は思う様に水に乗り切れず、泳ぎに無理を感じたが、さすがに選抜選手だけあって数日後には見事な進境振りを見せ感服させられました。

幸にして合宿中は雨の日も少なく南紀の太陽は時に初夏を思わせる様に照りつけ選手もコーチの先生方も思う存分練習に励げむ事が出来た。

この10日間の練習会を通じまして私皆様のお世話役として生活を共にさせて頂きましたが、選手の生活、練習等からいろいろと考えさせられました。特にこの合宿はオリンピックを目の前に控えての練習会だけにヘルシンキの場合等と比較されて非常な勉強になった。今度の場合は前例と違って女子が単独の練習会であったと云う事、又補助体操マッサージ等を併用した合理的な練習法をとられた事等です。

身体的にも精神的にも男子と違ってデリケートな面を多分に持つ女子はやはり今回の様に女子は女子だけで作ります雰囲気（環境）の中で思い切って練習を行う事は実に効果であると痛感しました。

シーズンの始めはやはり練習方法に於きましても

基礎体力の養生と共に緊張と解緊のバランスを保つての練習が必要である、水泳に体操とマッサージの併用は今後とも各地でも是非実施研究しなければならぬ方法だと思えます。殊にオリンピック合宿となりますと選手は精神的にも緊張状態にあるし又身体の上でも無理を起しやすい。この状態に、この練習方法は最適だろう。今一つは精神面の問題ではありますが、日本の女子はあまりにも日本水泳と云う小さな"カラ"に閉じこもり過ぎるのじやないかと思うのであります。

選手の合宿中の会話等こまかく注意しておりますと"我々の目標は日本制覇だ"と云う考え方をしていると云う事です。日本記録を更新すればもう自分の目的は達し得たと安心感を抱いてしまうのです。男子の場合は日本記録は世界記録に等しいと云ってもしよだけに、そこに目標を置くのも当然だと思えますが、女子の場合もっと視野を広く目標を大きく抱いて、それに一步一步と強く前進して欲しいものだ。オリンピック出場ラインを定められた女子水泳界の今日の目標は一応そこに置くべきではあるが、ラインに達する事が最終的な目標でない事をもっとしっかりと自覚して欲しいものである。

こう云った選手の精神的な面の指導を云う事は実にむづかしいものだ。特に女子に於いて一定のレベルに達した選手への精神指導は今後女子の水泳界向上の大きな課題だと信じます。スポーツ精神を広い意味でがっしりと植え付け技術と共に心身両面の向上を目指して1日でも早く国際水準に到達して行きたいものである。

10日間の練習会の結果につきましてはシーズン始めの事とて記録更新の面に於いて充分とは云えませんが、この合宿の結果が今シーズン中に充分生かせる事によって最大のプラスとなる可能性に結果付けたいと思えます。

オリンピックを目標とするこの合宿練習会は技術の面だけのプラスでなく女子水泳界に足りないオリンピックへの希望意識を強く掻き立たせ得た点に実に大きな収穫を感じずには居られません。

水泳指導者講習会及び

検定試験を顧みて

多 治 見 祐 孝

期 日 昭和31年6月11日(月)～16日(土)

場 所 東京大学(図書館及プール)

参加者 男子 6名 女子 4名

本年度第四回水泳指導者講習会並に検定試験は当初両国プールを使用して行なわれる筈になっていたのが、工事が遅れたために両国では出来なくなり、本年度の講習会は東京大学を使用して行なうことになった。東京大学としてはこの講習会の意義をよく会得して下さい、講義室としては図書館とそしてプールとを充分に使わせて下さったため本講習会としてはむしろ充実完備した講習会及び検定試験が出来たことを初頭に於て、その御厚意に対し普及部会として厚く御礼を申上げる次第である。

本年は梅雨的気候が例年より早かつたせいか講習会の始まる数日前より幾分夏型の天候となったので本講習の最大の山である気候の難関が開かれたことは当事者及び参加者にとって、何よりであると同時に本講習会の内容が、より向上した点であったと思う。

本講習会の初頭に行なった開講式に当っては田畑水連会長、文部省初中局長及びその他水連関係者多数が出席されたが、田畑水連会長、文部省初中局長は共に、学童を持つ先生方に対し、事故の防止を強調し、特にこれからむかえる夏期にあたって、毎年起きる水の事故に対し最少限度に食止めるための心よりの挨拶があったので、参加者一同は本講習会の意義が重且大であることを再認識したことがうかがわれた。

開講式を終えて講習会に入ったが、講師の松沢、宮畑、小池、根上、及その他水泳連盟の諸氏については、6日間の講習会及検定試験に対し、真剣に且つ熱心に参加者の気持になって、講義をされた。特に、この6日間の講習会に記して置きたいことは本

講習会の参加者の中には、過去に於て各種競技会に出場したことのある人々までが終始、一生懸命に学科、実科に努力研究を続けたことより、本講習会参加者全員が、欠席皆無と云う状態に於て、行われたのであった。

この第4回の講習会は回を重ねたことが、一つの理由になるかも知れぬが、講習会の参加者が非常に充実して来たことは、大いなる進歩であると共に、参加者一同が本当に真面目にこの講習を受けていることを痛感したのであったが、これはいつに多くの児童を持つ学校の先生方が、事故の防止と云うことに真剣さが増し、特に水難の事故防止は近年全国津々浦々に至るまで、相当数に上り、益々増加の一途を辿っていることは、周知の如くで、誠に残念にたえないのである。これ等多くの水の事故を吾々は全国に出来る限りその犠牲者を少なくすることを念願するものである。親が子供をつれて海に、川に、プールに遊ぶ場合、学校の先生が生徒をつれて、水に接近する場合、いの一に考えなくてはならない問題は、親が、そして学校の先生方が、水に対する知識を持つと同時に、よい指導者であってほしいということである。学校の先生方に水に対する知識がないとした場合、もし事故が発生したら、その処置はおろか責任を持つ立場にある先生が唯とほうに暮れるようなことになってしまふ。子を持つ親として安心してあずけることが出来ないのは当然であると思う。指導的立場にある方々が水に対して、無知識であると云うことは、実に危険この上もないことであって、これ等は水に対する知識人は云うに及ばず一般の人々が考えても知れたことであろう。

吾々はこれから夏場を前にして水による事故が出来るだけ、最少限に食止めることを念願すると同時に、毎年実施している、検定試験に合格された立派



な指導者の方々が、全国に散布されている現在であるので、どうかそれ等の方々によって大いに指導され、水泳普及のために御尽力下さることを祈ると共に、今後の水泳普及発展のために一役されんことを望むものである。

昭和31年度指導者検定試験合格者

| | | | |
|-----|-------|-----|-------|
| 北海道 | 杉山 登 | 青 森 | 佐々木達雄 |
| 岩 手 | 小沢 敬 | 秋 田 | 保坂 直広 |
| 秋 田 | 加賀谷耕三 | 栃 木 | 生井 幸夫 |
| 群 馬 | 栗原 安雄 | 群 馬 | 小林 利三 |
| 茨 城 | 植竹 正毅 | 千 葉 | 鈴木 清 |
| 東 京 | 横井 信 | 東 京 | 加藤 穎治 |
| 〃 | 茅根 寛明 | 〃 | 川井 和夫 |
| 神奈川 | 牧田 勝 | 山 梨 | 増村 栄治 |
| 静 岡 | 鈴木 明 | 静 岡 | 伊平 芳文 |
| 愛 知 | 藤田 直正 | 愛 知 | 山岸 甚平 |
| 新 潟 | 林 利八 | 富 山 | 松沢としを |
| 京 都 | 岡野 次雄 | 京 都 | 村中 昭 |
| 岡 山 | 垂井 一成 | 広 島 | 笹田 啓吉 |
| 広 島 | 中村 正之 | 〃 | 福岡 悦子 |
| 島 根 | 中村 昌郎 | 島 根 | 野島 格己 |
| 山 口 | 松本 一彦 | 山 口 | 吉村 繁正 |
| 〃 | 武安誠一郎 | 〃 | 有田 正 |
| 〃 | 篠田 衛 | 〃 | 金井 照夫 |
| 〃 | 渡辺八重子 | 香 川 | 佐藤 憲法 |
| 兵 庫 | 福山 秀雄 | | |

第一回 日本泳法大会

日本泳法競技大会を下記要項により実施する。

1. 主 催 日本水泳連盟
2. 主 管 奈良県水泳連盟
3. 日 時 昭和31年 8月19日(日)
4時～7時
4. 場 所 天理プール
5. 目 的 日本古来の各流各派泳法の正しい
保存並びに進歩に資せんとする
6. 参加資格 特に競技に対する参加資格の制限
なし、但しアマチュアであること
7. 種 目 ① 泳法競技
規定種目 3, 平体, 横体, 立体
選択種目 2 飛込を除くあらゆる
泳法の内より種目
を選び演技する
② 各流各派演技審査
各流各派練達の泳者による各流
各派の正統的泳法の演技を行う
③ その他審査委員の模範演技,
及公開演技
8. 表 彰 泳法競技優秀者には賞状及賞品
演技審査の優秀なるものには精練
証(仮称)

その他詳細に関しては各加盟団体に問合せこと



早慶水上観戦記

倉橋 範彦

28年間の伝統を誇る早慶対抗水上は6月3日神宮プールで気温23.5度 水温19.5度のコンディションで行われた。

今年はオリンピック・イヤーとあって早くから活況を呈したわが水泳界の活躍を見んものと5000を数えるファンが詰めかけ折から降り出した俄か雨もよそに力泳する各選手に元気な声援を送っていたが、5月半ば頃からの天候不順とこの日のプール・コンディションの悪さがわざわざいか記録的に特筆するものも見られなかった。

得点争いでは予想通り早大の一方的勝利に終わったが慶大も各種目に少数ながら着々と点を挙げ総計9点をものにしたことは賞讃してよい。

低調に終わった今大会中唯一の収獲は1分06秒6のシーズン当初にしてはかなりの好記録をマークした背泳の長谷(早大)の力泳振りである。戦後国際水準から取り残されようとしていたこの背泳界もすい星のように出現した長谷によって不振の汚名は完全に返上された。長谷は相変わらずローリングの少ない手足のバランスがよく取れた美しいフォームに今年は脚力と泳ぎそのものに力強さが加わり一段と磨きがかかってきたように思われた。練習時には1分7秒8が最高タイムでありながら、それを1秒2も上廻る記録を示したことは如何に試合に対する心構えがよいかを物語るものである。レースはスタートしてはや皆より頭一つ出、快調な滑り出しで50メートルを31秒1でターン、後半ますますさえを見せてゴールしたがレースの終わった彼は「前半少し遅過ぎたようだ、それにまた50のターンの時流してしまった」と洩していたが、この言葉はターニングとペースとの研究如何によっては1分4秒台突入に可能であるということを示しているものである。2位は梶浦(早大)と二宮(慶大)が争ったが、梶浦に1日の長が

あったようだ。梶浦にはまだ泳ぎにガタが見え、二宮は身体の割に大きな泳ぎをしているが、身体が重く水に沈み本来の泳ぎではなかった。もっとも二宮は別府でのオリンピック強化合宿以来病気で練習入りも少し遅れていたからシーズン深まるにつれてはこれらの欠点も矯正され、若いだけに今後も楽しめよう。

練習時の記録会で57秒8を記録して今大会の期待を一身に集めた形になった。短距離古賀(早大)は100メートルで50ラップを26秒4の好ペースで入りあわや大会新(57秒2)を作るかに思えたがラスト20メートルでつぶれ58秒6の記録に留った。泳としては昨年と比較して弱点は見受けられないが水に乗り方とラストの弱さから判断してやや練習不足の感を受けた。2位に入った坂井(早大)は腰に安定性を欠いており、この欠点を矯正することによって古賀などの一流選手とも対等に戦えるようになるだろう。

中長距離では全く山下(早大)の独泳のようなものになってしまったが400メートル4分49秒8、1500メートル19分10秒8は記録的にはまあまあといった所でスランプに続く盲腸炎、昨年のインカレにはバタフライに転向するなど不運に見舞われてやや影もすらぎつつあった山下が幾分でも復調の兆を見せてくれたことは心強い。かって彼が無敗を誇る強豪紺野を一蹴して名声を挙げた当時の泳ぎは右腕をかき上げると同時に巾のあるビートを強く早く打ち、その推進力によるリズムカルな泳ぎに山下独得のものがあつたが、今大会ではそれが殆んど見られず1500メートルの後半にわずかに思い出される程度でスムーズな泳ぎに変わりつつある。年令と共に体質も変わり、それと伴って泳ぎも変るのは当然であるが、果してスムーズな泳ぎが彼にマッチしたのか一考の余地があるのではなからうか。

バタフライ泳者中唯1人の蛙足の山下(慶大)がスタートから果敢な飛び出しをし、追泳する横地、多田(早大)を見事に振り切ってバタフライの優勝をさらってしまい、貴重な3点をものにしたことは誠に天晴れであった。全般的に足の弱さが基因して泳ぎが小さいようだ。

平泳では巧みに潜水泳法をこなしていた太田(早大)が予想通り首位を奪ったが、水中での威力がま

だ見受けられない。体力に恵まれた窪(早大)があまりにも不振だったのはどういうわけであろうか? まだ若いだけにあせらずじっくりと潜水泳法を研究し次回の奮起を望み度い。

総体的にこの大会の内容が年々衰退して来ているようで淋しく思われた。

(日大OB 報知新聞社)

— 明 立 日 三 大 学 水 上 観 戦 記 —

古 賀 伸 一 郎

1週間前に行われた早慶戦が背泳の長谷の1分06秒6の大会新以外に見るべきものがなく、淋しい競技会に終わったので、水泳ファンの三大学水上によせる期待は大きかった。スタンドを白一色に埋めた超満員の大観衆がよくそれを物語っていた。

しかし20度半という低水温にわざわざされたことも一因だと思うが、この大会もまた記録的には低調な競技会に終わった。

今年はメルボルンのオリンピック大会が行われるので国際的視野からみてもシーズン浅い現在米豪両国選手クラスの好記録には及ばないまでも、それに近い記録を期待したが、とくに自由形陣の不振が拍車をかけてメルボルンへの道は容易ならざる厳しい道であることを痛感した。

日大が下馬評通り各種目に大量点をあげて10連勝を飾ったが、短距離は立大、400、800と背泳は明大が日大を圧倒してそれぞれの特色を発揮した大会だった。日大は目標をシーズン後半においていたのでこの競技会に調子をもって行くことなどは考えないで激しい練習を繰返していた。そのためレースでは練習疲れの跡が見受けられた。

しかし記録的に大きな期待を寄せられていた平泳の古川(日)、バタフライ石本(日)はやはり際立った存在を示して、不振の自由形陣をカバーするとともに日本水泳界の期待に応えた。

古川は200米平泳で昨夏の2分33秒7の長水路世界最高記録を今シーズンさらに短縮しようとする意欲

を示し、昨夏の1プレッシング2ストロークから今年は3ストロークに伸ばした潜水泳法はシーズンに入って日まだ浅く、また泳法改良の過程にありながら100を1分14秒0の好ラップで入り、2分36秒6の好記録をマーク、他の泳者をよせつけなかった。シーズン初めの記録としては立派なもので昨年盛夏にマークした2分33秒7にゆうに匹敵するものであり、この種目の世界第一人者たる賞録は十分だった。日本の平泳は潜水泳法を採用して以来、急速に記録を短縮したが、まだ未開拓の世界であるので世界の最先端に行く古川にしてみれば、パイオニアとしての苦悩があるわけで、大変なことだろう。1呼吸で3ストローク、若しくはそれ以上のストロークは以前から考えられないことではなかったが、腕の力と肺活量を考えると理論的には優れていることが判っていても体力の消耗を考えて2の足を踏み、200米を完泳することは不可能だというのが常識だった。事実戦後最初に潜水泳法をとり入れた田中守(当時早大)は肺活量が不足でゴール寸前以外は1モグリ1ストロークからストロークを伸ばし得ず、昭和12年に葉室さんが作った日本記録2分40秒4を17年振りに更新した胡麻鶴君(当時中大)にしても2ストロークから伸ばせなかった。

しかし抜群の腕力と馬力を持ち時計以外には競争相手のいない古川が自己の世界記録を短縮するためには、この泳法を完全にマスターすることが一手段であるかも知れない。吉村(日)も潜水泳法を完全

に手に入れて130まで古川によく食下り、ファイトに満ちたレース振りは今シーズン大いに期待のもてる選手だ。木村(日)は何となく元気がなかったように見受けられた。相変らず潜水時の威力は恐るべきものがあったが泳ぎがまだ固っていない。

この3選手がいるため同程度の力を持つ戸上が補欠という日大の充実振りは全く素晴らしい。

バタフライの石本(日)は、5月初旬の別府における水連の合宿で2分28秒6を出して好調なスタートを切り練習中も27秒台をコンスタントで泳いでいると聞いていたから、25秒程度の記録は出るものと思っていた。しかし石本も正月を返上して熊本水前寺プールで練習を行い、その後も休息なしの練習で疲れが残っていたのか2分28秒8という彼にしては平凡な記録にとどまった。しかし昨夏の2分23秒7の長水路世界最高記録を出した時の泳ぎと較べて決して見劣りするものではなく、力量感のあふれた大きなノビノビとした泳ぎは快いリズム感さえある。100のラップ1分08秒8で養原(日)を1艇身引き離し自己のもつ大会新2分34秒8を6秒短縮した。アメリカへの水泳武者修業から5月末帰国した長沢二郎君(早大出)が自己の体験をもとにして「メルボルン大会のバタフライ優勝者は石本だ」と云いきっているだけに期待は大きい。

2位争いは予想された通り養原(日)と長島(明)の間に激烈なレースが展開されたが耐久力に劣る養原が後半浮く欠点を暴露して長島に敗れた。長島は第2回アジア大会に自由形長距離選手として参加、同大会1500で3位になっているが、その後パットせず遂に今シーズンからドルフィン・バタに転向、一応成功をおさめた。初めての競技会で2分35秒4は賞され良く、バタフライの王者石本が昨年この大会で2分34秒8の記録でデビューしたのと思いあわせて今夏楽しめる選手である。

群雄割拠の自由形400、800は新星坂梨(明大=山鹿高)にベテラン連中は鼻をあかされた。

坂梨は400、800ともに後半進出して2つのタイトルを握ったが、これはむしろ定評あるベテラン連の不振に乗じたものといってよく、若さとそのめざましい進境は、1500で18分05秒9の世界新をマークしたグリーンに対抗する“彗星の選手待望論”さえ叫ばれている折から期待に沿う成長を示して欲しいものだ。800は日大が大野、青木、池尻を送れば、明大は中長距離だけは日大に一泡フカせんと、好調を伝え

られていた野田、坂梨に期待を託した。レースは大野が例の早いピッチで素晴らしいスピードで前半をリードしたが、400を過ぎて精彩を失った。400で大野は坂梨を2米引離し、池尻が僅差で両選手を追い青木、野田は更に2米遅れていた。坂梨は450で大野に追いつき500から全く危げなく逃げきった。新星坂梨は山鹿高時代どうしても勝てなかった同僚池尻(日)を破って快心のレースを示した。大きな泳ぎでありストロークは左右不均衡だが、鋭く水をキャッチしている。足はほんの心もち変則なビートだから反ってアクセントがついてよく利いていた。持久力のある選手で練習中ロングを泳いでいても600位までは各100米を1分18-9秒平均で入り600を過ぎてから調子が出て15-6秒で泳ぐことがよくあると竹林地監督が語っていたが、なるほど後半の強さは格別だった。昨年の1500の世界ナンバー・ワン大野の今シーズンのデビューもまだ本当でなく前年新宅、前々年山下が1年きりで泳ぎを忘れてしまった苦い経験があるので注視の的だったが、前半だけ飛び出して後半シリ下りに遅れてしまいまた前者の轍を踏むのではないかと一沫の不安を感じさせた。しかし長距離などは天気でもよくなるとポッと調子が出て来るものだから気にすることはないかも知れない。

400は大激戦だった。800で金星をあげて気をよくした好調の坂梨が400でもベテラン選手の不調に乗じて優勝したが、このレースのラップタイムは100を細間(立)が1分4秒6、200は新宅(日)が2分18秒1、300は青木(日)が3分32秒6で交互にとるという激しさ250で新宅、青木、細間らのトップグループに加わった坂梨がラスト50を猛烈に青木と競ったが結局若さが物云った。“長距離の世界記録を更新する人が、日本には10人もいる”と米エール大学水泳コーチキップス氏がフランスのスポーツ紙レキップで語っているが、日本中長距離陣の大半の選手を持つこの三大学対抗戦で、ベテラン選手が不振だったことは、キップス氏の言に面映ゆさを感じるとともにオリンピックの年であるので、なお一層の淋しさを感じる。選手層の厚さはたしかに世界一だが、毎年チャンピオンが変る不安定な原因がどこにあるかを探究してその欠陥を排除しなければなるまい。陸上では“暁の超特急”吉岡隆徳氏がプロ・コーチになった。水泳にもプロ・コーチ制度が必要なのではなからうか。短距離は練習中好調を伝えられていた立大の柳瀬、清水の活躍が素晴らしかった。200

米ではベテラン後藤が100を60秒5の好ラップで清水、柳瀬らを1米以上引離していたが150を過ぎて柳瀬につかまり、立大コンビに名をなさしめた。春の別府合宿以来急速に力をあげて来た柳瀬が順調に今シーズン成長してくればオリンピック800リレー要員として期待できるだろう。

100は後藤がもちまへのスプリントで立大コンビに雪辱した。後藤の順当な勝利といえようが58秒8では谷、鈴木が卒業した後の学生短距離界を古賀とともに背負わねばならない選手としては不十分、なお一層の精進を希望しておく。

100米背泳は山下栄隆(明)が自己のもつ大会記録を更新したが、予想されていた通りこの競技会で最も低調な種目に終わった。

10秒の関門こそ切れなかったが、2位となった明大の新人山口(安房一高)には、将来期待出来そうだ。

メドレー・リレーは古川、石本の切り札を持つ日大が大会記録で優勝したのは順当すぎる程当然。

しかし日大としては背泳の一線級を一枚どうして

も欲しいところだ。

800リレーは実の所立大の短距離陣がこのように好調だとは思っていなかった。

豊富な持ち駒を持つ日大自由形陣がその日の調子の好い選手を動員することが出来るので日大の優勝は固いものと見ていたが予想が狂った。ここでも日大のオーバー・ワークが現われていた。

最後に苦言を呈すると、神宮プールに陣どる三大学応援団ブラスバンドの奏でる軽快なリズム、勇壮なマーチはほかの水上競技会では聞くことが出来ないもので、“ああ今年も恒例の三大学水上がやって来た”と感慨を深くする。しかし自校選手に応援が熱中のあまり再三、再四松沢審判長や場内アナウンスで制止されても応援を続けていたのはただけでない。来年から役員席の前にでも、赤黄青の小旗を用意して赤旗が出れば応援禁止、青旗のときは応援許可、黄旗は禁止(許可)近しの標識を出して競技会をスムーズに運営するようにしたらどうだろう。(早大OB 共同通信社)

(29頁より続く)

が途中でクロスを行い、その時スクリーン・プレイをして⑤のマークを④が横切り⑤はノーマークの状態で⑤'の位置から⑦'のパスを受けてシュートをする。この時⑦~⑦'への動きは⑤'の突込とのタイミングを充分に考えた上、ゴール・キーパーを自分の方へ引きつけて置いて⑤'へパスを送る。そうすればゴール・キーパーは完全に逆サイドをつかれ、シュートを阻止することは困難になります。もしタイミングのずれからシュートが出来ない場合には⑤'の反対のサイドに必ず④'が入って来ているので、それにパスをし、ゴール前から出て行きその後②が入って来る、又⑥'が前の⑥の位置へ帰り、②の掩護とゴール・キーパーの牽制を行い、又⑤、④はシュートかパスが終ったならば止まることなく速やかに防禦体勢と次の行動の為に元の自分のポジション迄素早く戻って行くことです。及ゴール前が混乱したならば③はハーフラインの近く迄出て来てパスを受け、陣容をととのえてから又攻撃をくりかえし、決して無理なシュートやパスをせず、正確なパスを交換しつつ攻撃を続行し、チャンスを作って得点をして行く様にするべきであります。

このフォーメーションに於て大切な事は、

(1) シュート圏内に於ては、ボールを支配している者の反対側には必ず1人が入って来てシュートの

はね返り球へのカバーをしてシュートをするか、それを取って後から突込んで来る者へパスをする。尙反対側の突込みはゴール・キーパーをけんせいする役割があるので必ずゴール・ポストを目標に突込んで来る事です。

- (2) 1人のリードマンが動いたならば全員が殆んど同時にスタートを起して各自の目的地に向って鋭く泳いで行く事です。これは1人1人がバラバラのスタートをして動いていたのでは、動きの順序を見ぬかれ出足を押へられ、又相手からつかまれたりして、タイムリーに動く事が困難になりますので、全員が同時にスタートすれば相手のマークは注意力が散漫となり、比較的動きやすいためです。
- (3) パスの正確である事はこのフォーメーションに於ては絶対欠くべからざるものであり、不正確なパスはチーム全体の動きのタイミングがくずれ攻撃がしにくくなります。

この三つが大體このフォーメーションに於ける注意すべき事です。而しフォーメーションにのみとらわれず、その根本原則をよく理解してプレイを行う事により色々変化が生れももっとも理想的な攻撃方法が生れて来ると思います。今迄述べてきました事が私の動く水球に於ける攻撃方法であります。

(日大水球監督)

日本大学・中央大学対抗水上競技

下 坂 篤

今年のシーズンは雨にたたられ通しである。早慶戦も雨、三大学もまた同じ、そして今シーズンから新たに設けられた日本大学対中央大学対抗戦もひどいドシャ降の中で行われた。水温は下る一方で20.5度、気温も23度とあって最悪のコンディション、記録の低下が心配されたが、古川、石本、吉村などの活躍でレースは非常に活気あるものとなった。

記録の上から見れば、古川の100メートル平泳1分10秒4、200メートル2分35秒8、吉村の2分38秒9、石本の200メートルバタフライ2分24秒7を除いて、たいてい見るべきものはなかったが、大野、青木、池尻、後藤など有望選手が20日前の三大学とはうって変わった、力強い泳ぎぶりを見せたことは大きな収穫だった。

平泳の古川は相も変らぬ強味をいかに発揮。その勝負強さといい、レースの運び方といい、一点の非の打ちところもなく200のラップで100を1分13秒5で折返したが、もう少しスプリントがつけば2分30秒台では泳げるだろう。吉村はラストの25メートルで古川に劣らぬ力強い泳ぎを見せた。2分38秒6は古川、魔鶴に次ぐ世界第3位のもので、スプリントをつけて、腕を鍛えれば2分35秒前後の期待は持てる。古川、吉村が200の泳ぎを会得しているのに対して、木村はまだそれをのみ込んでいない。この違いが記録の上に現われているのではなかろうか、一呼吸にいくつカいたか自分に最も適した泳ぎかたを見出さない限り、今後長足の進歩は望めまい。

バタフライの石本も古川に劣らぬ好調なレースぶりであった。泳ぎも安定していたし、ピッチもよくあがっていた。だがラスト10メートルの泳ぎがまだ十分といえない。彼の今後の課題はラストをいかにまとめるかということになりそうだ。箕原はドルフィンをはじめ2年目なだけに、後半がまだあまい100を1分6秒で泳ぐスピードを持っているのだから、もっと泳ぎ込んで腕を強くすれば2分20秒台の声は聞けるだろう。

自由形短距離は、100、200とも後藤の優勝に終っ

た。後藤は体も回復して元気をとりもどしてはいるが、27年頃の迫力はない。100はともかくとして200はまだ頼りなく、ラストなど特に心細い。泳ぎは先天的に巧いので、もっと体力がつけば記録の縮まるのだが……。東野もなかなか鋭いスプリントを持っている。100など50まで後藤に劣らぬ滑りで58秒8でゴールしたのは注目に値する。100の割に200の記録が悪ったのはオーバーワークのせいではなかろうか。この2人の外に短距離で目についたのは、日大の新人川岡と近藤だ。特に川岡は体力に恵まれているが、今の泳ぎはおうようだ。鋭さをつけ、ピリットしたところを持たせれば200は2分10秒そこらでは泳ぎそう。

近藤はギビキビした泳ぎ振りを示したが、まだロングの練習が不足してはいないだろうか、耐久力をつけることが肝心。

長距離は低水温に徹底的になやまされた。1500における青木の18分51秒は満足すべきタイムではないが、20.5度の水温を計算に入れるとまあまあというところ、1200頃で先行する池尻をつかまえ、ラスト150で一気に振り切ったがあれだけの馬力があれば、前半にもっと出しておくべきだ。そうすれば18分45秒ぐらいは望めたらうに……。大野は冷たい水が苦手だけに1500では得意のピッチがあがらず、見るべきところはなかった。新宅は少し脚が利き出して腕の負担が軽くなったせいか、ラストでは2位の池尻を追込んだ。もう一息というところまで来ている。池尻はラストの泳ぎが乱れていた。400は300からトップに立った大野が逃げこんだが、前半が遅れすぎる。グリーン、ローズ、チャップマンなど100を1分03秒台で入るといわれているから、もっと積極的なレースをしないかぎり、外国選手と互格の勝負は出来ない。

背泳は中大が完勝した種目だが、世界のレベルが1分5秒前後にある今日、1分10秒台ではお話しにならない。井本、田口の1分10秒4に期待をかけるのみ。

(日大 OB. 日本経済新聞社)

…(((シンクロ・スイミング講習会と)))…

競技会の報告

串田正夫

米国シンクロ・スイミング委員長ノルマ・オルセン夫人の厚意で次々と参考資料を送ってもらい、お蔭で一応色々のことを知ることは出来たが、何分経験のないことで、指導法、競技会の運営については、全く暗中模索の有様で、確信のあるはずもなかったのであるが、とに角やってみれば、自ずと方法もつき、将来の目安も立つと考え講習会及び競技会を計画実施した訳である。

講習会は当初30名~50名位集まれば上々と思っていたところ、112名と云う予期以上の参加者に、面喰った次第であるが、案ずるより生むがやすし、一応、所期の目的を達し得たと思う。

競技会は、時期も早く、地方では、全然練習が出来ないため、東京から1チーム参加したに止まった。ソロ・デュエットは昨年の国民体育大会の際行ったものであったが、チームは本年3月から始めた人達も混り、選手自身で、音楽を選び、演技構成まで自分達の手に行ったことは、選手自身に分って来た証拠であり、本競技の発展のため喜ばしい傾向であり、一段の進歩と云える。舞踊のように「振り付け」されたものを演ずると云う考えでは、到底大衆的発

展は望めない。あくまで選手自身の創作によるべきである。また、そのように持って行くように指導者は指導するようにしなければならない。

なお初心者競技としてスタンツを5つ続けて行い、その技術の正確さから採点して競技を行った。

講習会及び競技会の実施概要

講習会 主催 日本水泳連盟 後援 Y.W.C.A.

場所 YWCA室内プール

期日 昭和31年4月4日~7日

参加人員 112名 東京90名 地方22名

競技会 主催、後援、場所同上

期日 昭和31年4月7日 午後6時~8時

初心者競技、参加者11名

1位山本康子(京都)及び堂本君子(広島)

一般競技

ソロ、牧田幸子(水泳研修会)

題名 玩具の兵隊 54.9点

デュエット 牧田幸子、橋本紀子(ク)

題名 トンボ 47点

チーム 水泳研修会(牧田幸子、橋本紀子、松沢洋子、西沢吾子)

題名 キャラバン 53.8点



講習会講師

及び助手

(水着、左から
松沢、橋本、
西沢、牧田)

30年前の話



宮 畑 虎 彦

編集子から、パリおよびアムステルダムオリンピック当時のことを書くようにという注文である。パリの大会は1924年、アムステルダムの大会は1928年、大体30年昔のことである。別に記録にたよるのでなく、記憶にたよって書くことであるから、ところにより、事によって間違いもあるかもしれない。また同行した人々の中には私と反対の感想や意見をもった人もあるかもしれない。それらのことを念頭において読んでいただきたい。

1) 当時の日本競泳界

クロールが中距離のレースに用いられるようになったのが大正9年、内田、齋藤両選手がアントワープに行っている間に行われた日本選手権大会で、茨木中学校の入谷君が泳いだのが最初だといわれている。それから3年大正12年春に大阪で行われた極東選手権大会に、日本の水泳は全種目に優勝して、2年前上海で敗戦して以来の「必勝」の宿願をとげた。日本チームは、大体東京のYMCAおよび茨木中学校のプール育ちが主力で、浜名湾、和歌山県田辺、長崎など、極めて限られた地方の出身者からなっていた。競泳はまだこの程度にしか普及していなかった。私は高知県出身であるが、クロールは大正10年の夏おぼえた。その前年まで高知の孕湾で行われていた長距離競泳が、この年から今のような50M 100M……などの種目別の競技大会に変わった。この大会でともかくクロール泳法を用いたのは私だけであった。水泳の盛な高知でもこの程度であった。12年の極東大会頃でも「休まずクロールで泳ぎ切れば」1マイルの選手になれた。当時の大体の力が想像できよう。私が正式に水泳を初めたのは大正11年11月からである。多分12年の1月であったと思うが、風邪気味で、練習を軽くしていた。その時おもしろ半分に平泳を泳いだら220ヤード3分15秒であった。

それが「極東大会の選手に使える」といわれることになり、また事実春の大阪では平泳で出たのである。50Mのプールに出るとどうしても3分20秒では泳げなかった。決勝でビリであった。平泳の選手6名を探すのに骨が折れた頃である。

大正12年にはまだ日本水泳連盟はなく、選手権大会の主催者は体育協会であった。前回のアントワープオリンピックのこともあり、春には極東大会に優勝してはいても、翌年のパリのオリンピックを考えているわけではなかった。少なくとも私はそんなことは考えられなかった。それよりも秋のインターカレッジが大切であった。その大会は、9月1日の関東大震災で中止になった。YMCA——インターカレッジの直前を除いて当時東京の「河童」の巢はここにあった——のプールも温水でなくなった。10月頃、そろそろ気持ちがおちつき、水恋しくなると、YMCAに集り、プール掃除をした。梅沢親光さんか飯田光太郎さんが「今年のレコードだと来年のパリの大会には800リレーで4等になれる」ときかしてくれられた。それまで世界記録とかオリンピック大会などいうと、まるで別の世界のことに思われていたのが、急に身近に感ぜられるようになった。しかし震災でパリ行は実現しそうもなかった。

YMCAのプールは、その冬は4～5度の冷たさであった。梅沢さんと飯田さんがこの冷水に入って「頑張リッコ」して飯田さんが30分いたかと思うが、われわれには到底できない芸であった。大抵の者は40ヤード泳ぐと上がって風呂に入った。齋藤巍洋君は120ヤード位泳いだ。これは「水の中から生れたような」泳ぎ好きで、落合辺にあったプールで張っている氷を砕いて泳いだりした。その氷のカケラで背中に怪我をしたこともある。

ともかくYMCAの20ヤードプール1つで、東京中の「河童」を養った位だから、当時の普及振りは

知れるだろう。

2) パリ・オリンピック

3月にパリ・オリンピック行きの選手が予選によらないで前年度の成績を参考にして決定発表された。ラジオのない頃である。新聞で自分の名を見た。800リレーが中心で、それに背泳と平泳各1名、リレーの補欠に使える選手ということで選考されたというような話であった。私は急いで高知に帰った。高知ではもう水温が18度あった。

4月27日の出発まで、約10日間、大阪の茨木中学校で練習した。杉本監督が茨木中学校の先生であり、高石、石田選手は茨中を卒業したばかりであった。主として大阪の三越で、皆の服装を調えた。

船は香取丸、9000トンあまりの船であった。陸上競技6名、水泳6名、庭球1名（この大会頃はオリンピック種目に庭球が含まれていた）の選手13名に見學員、役員合計25名の一行、乗船した庭球選手太田芳郎君は、上海香港間で盲腸炎を起し、香港で上陸入院。ここで一行と別れなくてはならないことになった。

門司の海で、上海のプールで、練習した。香港を出てから船の甲板にキャンパスのプールが組立てられた。5月4日のことである。それからマルセーユにつく6月5日まで、毎日、この長さ7M12のプールの世話になった。印度洋では船が揺れてプールの水がおどり、危険で泳げないこともあった。

忘れられないのは「亀の子」である。プールが短かく思いきり力を出せないので考えた練習法で、泳者の腹を「さらし」で巻きうしろで結んでその端を長くし、別の1人はプールの縁に立ってその端をもつ。泳者はうしろから引張られているので、いくら頑張っても前進はしない。「亀の子」と呼んで、あまりにうれしくない練習であった。

短いプールのおかげでターンだけにみんなうまくなった。当時の記録から数字でそれを示すと表のとおりである。

| 選手 月日 | 小野田 | 高石 | 野田 | 宮畑 | 斎藤 | 石田(平泳) |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 5. 4 | 秒 7.2 | 秒 7.4 | 秒 8.2 | 秒 7.6 | 秒 7.2 | 秒 8.6 |
| 5. 10 | 6.8 | 7.0 | 7.0 | 7.0 | 7.0 | 8.2 |
| 6. 2 | 6.6 | 6.8 | 6.8 | 6.6 | 6.6 | 7.8 |
| 初との差 | 0.6 | 0.6 | 1.4 | 1.0 | 0.6 | 0.8 |

浜松商業3年生で、浜名湾育ちの野田が、それまで練習していなかっただけに最もよく進歩し、「プー

ルの主」と思われていた斎藤でも14Mを泳ぐのに0.6秒短縮したのは主としてターンの所要時間の短縮である。

この練習を経た後しばらくの間は、ターンが非常に楽で、どんな所でどれ程とっさに壁にぶつかったも困らなかった。それが1シーズン過ぎると、だんだん駄目になった。誰だったか、おどりの名手がいった言葉がある。「1日練習をなまけると自分にわかる。2日練習を怠ると批評家にわかる。3日怠けると観衆にもわかる」。いまは選手の体育も大変だと思うが、ターンなどについてどれ程心を使って練習しているかどうか疑わしいと思う場面によくぶつかる。

マルセーユまで40日の船旅。今から考えると随分気の長いことであるが、当時はすべての生活のテンポがそんなであった。非常に早く大会の行われる国に行き、長い練習期間をもったのも当時としては普通の考えであった。

私どもにとって異様に感じられたのは、フランスの選手の中に軍人がいたことである。顔は今も思い出せるが名前は忘れた陸軍の伍長の水泳選手がいた。練習もよくいっしょにしたし、種目も実力も私とあまり違っていなかった。ジョアンビルとかいった陸軍の学校ではスポーツの研究をしていた。そこへ見学に行ってモッソーのエルゴグラフの実験などした。被験者になったのは岡部平太氏で、岡部さんが、指に重りをつけ屈伸を繰り返すうちにどうしても指が動かさなくなった時の顔を今もまざまざと思い出すことができる。案内をしてくれたのが陸軍少佐であった。「兵隊がスポーツをやり、オリンピックにも出る」ということが不思議に思われた。

スポーティングクラブの設備にも驚いたし、ツォレルのプールにもびっくりした。ツォレルは市街のはずれの丘地で、地下鉄を降りるとエレベーターで地上に出た。そのような高い丘の上にプールはあった。それが、はやくいえば、50Mの長方形の水槽を、たくさんの支柱の上に乗せ、周囲にスタンドに造って囲った形でできていた。何しろプールといえば大阪築港のプール、芝公園のプール、それに茨木中学校のプール、東京YMC Aプールより知らないわれわれには実に豪壮なものに見えた。10Mの飛込台はこの時初めて見たのである。

宿は初め大統領官舎の近くのホテルに入った。こゝは1週間で出た。チョコレートが多い国なのであ

ちこちから贈物にいたゞくのはチョコレートが多かった。当時パリにおいでになった東久邇宮さんからいただいたのがすばらしかったと記憶している。チョコレートを食い過ぎて鼻血を出した選手もいた。

食事は朝昼をフランス式に、夕食は日本人クラブまで行って日本食を食べた。食後クラブの部屋で球突きをするのが楽しみであった。ごくわずかの時間であったが毎日のようにやった。小野田主将が球突きは一番上手で、他はこの時初めてといってもよい程度であった。

大会の頃には大使館参事官であった杉村陽太郎氏がよく来て激励してくれた。杉村氏は柔道は嘉納先生から講道館の後継者に望まれたという達者、水泳は浜寺の長距離競泳の優勝者。小野田君の泳ぎのうまさ非常にほめた。泳ぎのことが詳しくたという事も原因していたと思うが、ともかく熱心に来ていろいろ面倒を見て下さった。

通訳には大使館にいた染谷氏があたってくれた。初めのうちは水泳の術語がわからないので困ってたらしいがだんだん慣れて後にはすっかり「通」になった。その頃時々若いフランス娘が染谷氏を訪ねてホテルへ来たが、次のアムステルダム大会前パリで練習した時には、染谷氏はその娘さんと結婚していた。娘さんの家が小さいホテルを経営していて、われわれは一夕招待をうけた。染谷氏は、ちょっと見た顔形や服装に似合わず、非常に社交ダンスがうまくて、ダンスホールでも染谷氏がおどり初めると外国人も皆おどるのをやめて見る、ということであった。

2日続きの大会の経験だけしかない——大阪の極東大会はそうでなかったはずだが、何もおぼえていない——私には、オリンピックのように少しずつの種目を決勝まで済ませて、次の種目が始まる形が印象的であった。それがすぐ自分たちの生活にひびいたからである。

わずか6人の選手であったが、監督が1人のレースにかかり切りになると、他の選手はその間1人で行動しなくてはならないことがあった。私は一度ひとりホテルに帰って昼食をし、午後のレースのためにプールへ帰って来なければならないことがあった。

昼に食べる料理に注文があった。しかしそれをフランス語で何というのか知らない。染谷氏にたのんでその料理の名を紙片に書いてもらってホテルに帰った。ところがあいにくその料理がなかったらしい。

別の料理を出して来た。仕方がないからそれを食べながら、給仕しているホテルの娘に、この料理は注文の料理と違うことを示そうとした。娘は「うまくないか？」ときく。今食べているのがうまくないわけではない。そのつもりで「ノー」とやっちゃった。娘はさっさと皿を持ち上げようとした。あわてて立ち上がってその皿を取り返したことがある。注文の料理はなく、いまその代りまでとり上げられたら、ひもじい腹で午後のレースに行かねばならぬ。今なら食事もっと楽なはずだが、当時はこの程度に不便だったのであろうか。ともかく、Yesとnoの返事の仕方が日本と違うことは知ってはいたが、この時はあわてゝいて失敗してしまった。こんなところで不必要な精力の消耗をするのも「手」が足りないからである。

高石君が一躍有名になった大会であったが、その代り高石君は初めから終りまで泳ぎ通して苦勞した。この苦勞の結果、高石君の泳ぎは帰りの船の中から急に変わった。香港でよい記録を出し、秋には1分を割ったと思う。

日本の泳ぎは型が美しかったので、ツールールのプールにアメリカが現われるまではいくらか人気があった。腕が弱くて、ちょうどその頃のアメリカの女子選手の泳ぎに似ていた。「強くなるためには、腕の強い選手が出なければいけない」というのが自分のその時の感じであった。

スエーデンのボルグ選手は大会の2日位前にパリに現われた。1500の予選で高石君といっしよの組になっていた。「君は2番になるチャンスがある」と高石君に向っていった。「人を食った奴だ」と思った。1500に優勝した豪州のチャールトン は年令16才位で若く人気があった。この大会の水泳の人気はこの少年がさらった。100Mのワイズミュラー、背泳のケアロハなどはもう既に有名な選手であったから、勝っても「当然」としか思わなかった。この頃の日本はそれこそ、「参加するためで、勝つためではなかった。」

800リレーは、750を過ぎるまで3位にいたが、ボルグに追込まれて、前年秋からの予想通り4着になった。日本としては初めてのことである。高石君は1500Mと100Mで大活躍をし共に5着になった。斎藤君の背泳が6着。当時の日本としては満足な成績であった。

ボルグは世界中を歩いて 年中泳いでいるようであ

ったし、ワイズミュラーがコーチのバックラックに手をとるような指導をうけていることなどを知って、自分たちには非常に遠い世界、とてもまねできない境遇だと思った。

水泳はいつもオリンピックでは最後に行われる。パリの時も水泳が終るとすぐ一行はロンドンへ向った。1週間位見学した。つい1週間前に映画「リチャード三世」を見ながら、当時ロンドン塔を見学に行き、昔のままの部屋の中を見、「リチャード三世」に出て来る話の一部もそこできいたことを思い出し、感慨が深かった。パリでは食事の時ブドウ酒が出る。これは「ただ」であるが水を注文すると別に料金を請求された。ロンドンでも、博覧会を見に行き、昼食の時みんながよく水を飲んだ。マネージャーの沢田一郎氏が思いがけない「水代」にびっくりしたことを忘れない。

3) アムステルダム大会

アムステルダム、オリンピック（昭和3年）の時は、パリに出た選手が何名かいた。

大正15年と昭和2年にハワイ遠征をし、またハワイを東京に迎えなどして、国際的試合にも慣れ、ハワイでは800 Mリレーで「世界記録」を破った経験もあった。そんなことで選手自身が水泳界における日本の「地位」なり実力を自覚していた。

選手は15名で、飛込に高階（現在 辻）君が初出場した。私は大連にいて、予選会の直前に上京した。予選から出発まで2週間しか間がなかった。

今回は船でなく、汽車でシベリヤ経由、まずパリに直行した。陸上はドイツ、ボートはロンドンへ、それぞれ別々に行った。パリの時は、まだ水連もなく、体育協会の名で国際的な各種スポーツ連盟に加入していたが、今回の大会を機会に各連盟が日本のその競技を代表することになり、それらの加入の手続などの事もあって、水連代表として飯田光太郎氏が行った。たまたまドイツへ留学する川島震一郎博士を依頼して、われわれの「ドクター」となってもらった。パリに直行したのは、アムステルダムのプールはまだ完成していないし、パリのツーレル・プールであれば、アムステルダムにできるものと大体同じようなプールであり、前回の経験もあり、練習にも都合がよいただろうということであったと思う。

約3週間パリにいた。この時も旅宿に苦勞した。最初大使館で世話してくれた宿は、ツーレルのプー

ル近くにあったが、街の広場に面していた上に、あいにく着巴間もなく、7月14日を中心とする国際日にあって街が騒々しくて夜もろくろく眠むれなかった。そこでセーナ河畔のホテルに宿をかえた。

調子が出たのはパリについてから2週間目であった。この日殆んど全員が自分の新記録を出した。特に鶴田君は世界記録を破った。ようやく「優勝」が夢でなくなった。

渡辺伸一郎氏が、われわれより2ヶ月ほど前から朝日の特派員でパリに来ていて通訳の勞をとってくれた。アムステルダムへはわれわれより先に乗り込んだ。行く時に「君たちがアムステルダムに来る迄にオランダ話を勉強しておいて通訳してやるよ」といった。もちろんうまくはなかったと思うが、アムステルダムでは、ともかく彼はオランダ話をしやべった。

陸上で織田君が三段跳に優勝した時、丁度私はプールにいて日章旗の上がるのを見た。その時渡辺氏がそばにいたイタリア選手たちにそれを説明した。「イタリア話もやるのか」ときいたら「外語の夜学でやった」という返事であった。パリの時石黒敬七氏に会ったのと一対で印象が深い。アムステルダムの直後、パリのグランプレー（パリ市長大賞）の大会に高石君が招待されていたので、2人で行った時は有島生馬氏や日名子実三氏に大変世話になった。あちこち案内していただいた。

水泳の競技は8月4日から開始されたが、オリンピックの開会式が7月28日になっていたので、26日パリを発ってアムステルダムに乗り込んだ。ここでも旅宿で苦勞した。サングラムというアムステルダムからかなり遠い田舎町に宿があった。「蒸汽船」に30分乗って、それから電車に乗って競技場に行かねばならなかった。練習場のよいのがなくて苦勞した。希望によって2組に分れたりした。1組はY・M・C・Aプール、1組は近所の水泳場。

競技の前日になって、競技場の近くへ宿をかえた。素人家に2~3人ずつ分宿した。練習のためには、オリンピックプールは使わせてくれないし、その事でも苦勞して、選手は朝6時頃、誰もいない時に、柵を乗り越えて入って泳いだりした。

パリの時とは違って、高石君の名はもうかなり知られていたし泳ぎもよかった。それに鶴田君がパリで世界記録を破る練習タイムを出したことも知られていた。（タイムをとったフランス水連の人がいて、

その人の時計も私のと同じ2分47秒を示した)。それでかなり注目された。

高階君は、パリにいる間は1日に40回位飛んでいた。それでも相当疲れていた。ところがアメリカの連中が毎日に120回ずつ飛ぶのを見て、練習回数を2倍の80回にした。高階君が、日本最初の出場であり中学生の身で、よく決勝(9人)に入った程の進歩を示したのはこの熱心な練習の結果であった。

私が当時考えていたのは「人並以上の練習をする選手だけが人並以上に強くなれる」ということであった。これは単に人並以上に長い距離を泳ぐとか、誰よりも長くプールにいるということではなくて、「精神を水泳に打ち込む割合」のことである。パリの時でも、アムステルダムの時でもそうであったが、日曜日などには練習を休んで見学に歩いた。「水泳に打ち込んでいる」という連中は、こんな時さっぱり「気乗り薄」で電車の中などでもよく居眠りした。反対にこのような時非常に心を働かせる選手もいる。その人の生命の発展という立場から、このどちらがよいかということは問題である。しかし少なくとも水泳に勝つためだけからいえばプールにいる時「全能力を發揮」することができればその他の時間は「馬鹿」でもよい。一般にこの頃は学生に「気が多過ぎる」というのが定評である。何でもやりたがるが一つのことに夢中になる学生がいないというのである。「一般教養」のねらいの一つはそこにある。広い教養である。これ式の行き方では水泳には強くなれない。何しろ日本で一流というのは、今では、同時に世界の一流ということである。20才前後で世界的になろうというのであれば、「何をやらしても人並みにやれ、その中で水泳は世界的だ」という大業を成し遂げ得る青年はちよっといないだろう。あれもしたいこれもしたいという要求のある人は水泳選手などにならない方がよい。猪谷選手のスキーは親子2代かかって、すべてをスキーに捧げた猪谷一家の生産物である。その猪谷選手が、オリンピックの直後、「このままスキーを続けるかそれとも勉強に専心するか」、悩んでいることを新聞は伝えた。多かれ少なかれ大選手がもつ悩みである。すべてを捨てて、ある期間、その一技に没頭しなければ大成功はむづかしい。一般学生並みにあれもこれも楽しみという楽しみのすべてを追ってはい、選手としては成功できないと覚悟しなければならぬ。非常によい素質を恵まれた少数者は別だが。

さて、話を本道にもどそう。競技は例によって1500Mから始まった。高石、竹林、新井の三君とも第一予選パス。準決勝は高石棄権、竹林途中棄権、新井4着で失格。次の400Mは高石、米山、新井で出たが、これも準決勝で敗退。高石君は既に5分3秒4の記録をもっていたので、まさか準決勝で破れるとは誰もか思っていなかった。優勝者ゾリラの記録が5分1秒6であった位だから、平素の調子が維持できていたら結構優勝をかけて奮戦できたはずである。しかし、高石君はもう「盛り」を過ぎていた。パリの時は「100Mを1分2秒台なら泳いでみせる」と豪語していた。当時1分5秒の記録を持っていて「2秒」というんだから意気盛んなものであったし、事実決勝には2秒台で泳いだ。ハワイ(大正15年)の頃など、上陸直後「風土病」といわれる高熱にやられ、起き上がって次の晩59秒台で泳いでカハナモクを破った。その頃は食事も睡眠も一向意に介しなかった。それが、アムステルダムの時は、かつて見ない精進をしたのにもかかわらず、元気はもう下り坂であった。といっても、100Mの活躍、さらに1932年にもまだ出場したところをみると、状況がよければこの種目にももっとよい成績が出せたはずだと思う。

背泳は入江の若さがものをいった。中学校4年生の入江君は理科が好きで、この旅行中も何か理科の製作品をトランクに入れていたと思う。練習で1分16秒台が出ると「練習でこんなタイム出たことあらあしまへん」と喜んでいて。試合度胸がよかった。コジャックが1分8秒2で優勝し、4着の入江君が1分13秒台であったことを今になって考えると、その頃はまだ競争がそう激しくなかったと思う。

アムステルダムに出る予選会の時まで、日本の一番の弱点は平泳にあった。その平泳で鶴田君が2分54秒2で泳いだ。私はアムステルダム遠征の日記を書くことにしたが、その最初に「出発より前の事で次の2つだけ書いておこう。(1)今日、鶴田が非常に調子がよくて、午前に行った100Mで最初の50を36秒2、100を1分17秒で泳いだ。あんまりすばらしいので100に着く前つづいて200Mまで泳げと叫んだがきこえなくてやめた」とある。当時としては驚異的な記録であった。優勝した時も、その前の準決勝も、最初の50はともに36秒8、100は1分17秒6および1分18秒6であった。この前半の強さが鶴田君に幸いした。8月2日陸上で織田君が日章旗をあげた日に

は鶴田君は「3分が切れない」というコンディションであった。それが立ち直り初めた時に平泳が始まり、好調の波に乗って連日「新記録」を出した。馬渡君は予選で敗れたが記録からいえば立派な成績であった。

400Mでは、ワイズミュラーとボルグが隣同士でせり合い、両雄共精魂尽きたところを、1コースにいたアルゼンチンのゾリラがわずかに抜いて、番狂わせの優勝をした。このような大会には、よくこんな例がある。100Mのバラニーもそれに近い。高石は100Mに優勝は望めなかった。2日程前ワイズミュラーが、25Mプールではあったが、56秒であっさり泳いだ。その時計を押ししたのが私自身であったから、これにはとても勝てないと思った。「2着に入ってくれたら」という希望であった。高石は7コースを泳いで、後半は相手が完全にブラインドにいた。バラニーがその隣りで馬鹿に調子よく、2位に入り、結局ワイズミュラー優勝、高石3位であった。

これも現在の選手にはわからない苦勞の一つであるが、当時日本からはまだ競技役員が出ていなかった。選手のコース順は抽せんするということになっているが、前日に役員がひくので、本人はいない。よく1コースとか7コースにあたった。何となく「ひがんだ」。

800リレーの2等は初めからの予想であったが、パリの時はリレー選手は4人しかいなかったから問題なかったが、この時は4人を選ぶのに気がついた。高石、佐田、米山は大体動かなかったが、後の1人を決めるのに困った。困った末に、まずい方法だが、朝早く泳がせて「その日最もよい1人」ととった。予選には野田、決勝に新井となった。メンバー決定に苦勞した割にレースそのものには印象がない。

鶴田の優勝が大きかっただけに、高石の3等、入江の4等、リレーの2等さえ、やや「霞んで」見えた。

大会の後、ドイツ国内数ヶ所で交歓競泳を行った。上の3人はこの旅行中もやはり強かった。体力的にも強かった結果であろう。

この大会の反省として水連へは、監督を早く決定すること、できれば種目別にコーチをつけること、オリンピック前の候補者の合宿練習など進言し、これは次のロスアンゼルスに実行された。

今の選手から見ると昔はもっと楽であった。しかし、その当時はそれで「ベストをつくし」ていたのである。このシーズンこそは、一路メルボルンを目指して精進してもらいたい。

(水連評議員、文部省大学視学官パリ、アムステルダムオリンピック参加)

・・・((((頑張れ 水球))))・・・

球技としては早くからオリンピック参加の経歴を有し乍ら、このところメルボルン行なぞオクビにも出さない水球は、サッカー、バスケットのメルボルン強行参加に較べて、ナンタルことかと水泳ファンをなげかせている。

マニラのアジア大会で優勝さへすれば文句なく行けたものを、決勝でシンガポールにウマウマとそのペースに引ずり込まれ、殆んど誰もが予期していなかった4-2で惜敗した。技術的には遙かに優れてをり乍ら、全く寝首をカかれたとはこの事で、見ていた殆んどの人達も、試合に出た選手達も、亦このチームを指導した人も、一様に感じたことは皆同様に、実力を半分も出しきれない寝覚の悪い後味しか残らなかった。要は国内で年間20試合位しかプレーしないゲームセンスの欠除にあった。

その後国内では試合数を増加したり、オランダからスモール選手が来朝して実戦的な猛練習法を伝授したり、水球戦術の研究等、従来に例を見ない真剣な研鑽が重ねられたので、最近その実力は相当の域に迄到達していると謂はれている。

然し未だ一つ目立つ欠点は、他力本願と迄云っては失礼だが、機会の来るのを只待っている様に見受けられる気力の弱さではあるまいか？ 敗けたシンガポールと再試合をして勝つチャンスを作るとか、余りスヌメはしないが、レスリングの八田式海外遠征を行ふ気構へ位は、ゼスチュアとして位欲しかった。

風聞するところに依れば、日大チームの鶴田監督が香港遠征を計画している由、洵に快哉の次第、是非実現し、これを機会にヨーロッパ遠征をも近く実現すべきである。(水球ファン)

エールでの練習

長 沢 二 郎

冬季シーズンは12月から始まり4月上旬の全米選手権を最後に終了する。夏季シーズンは6月から8月一杯であり他の期間は大体オフシーズンという事になる、しかし実際の彼等はこうした期間中にも練習が出来るのだから一年中がシーズンのようなものである。以下は彼等の練習法等エール大学を中心としたものだから極めて狭い範囲のものでしかないが、大体アメリカの他の人達についても似たようなことが云えるのではないかと思う。

組織だった練習は11月下旬からかなり急激に始められたと思ったが、実際には殆んど選手がそれ迄にもずっと泳いでいた。プールにおけるこの練習に入る前の約2ヶ月間にわたって“ボディビルディング”なる体操をここで無視することは出来ない、日本でも最近ではボディビルなるものが流行しているとのこと、しかしここでとりあげるのはこうしたものとは目的からしてもかなり異ったものであり、水泳選手を中心としたものであるだけに内容も随分異なるのではないかと思った。

夏休みが終って学生が集まってくるとこのボディビルなるものが9月中頃から週5日ずつ土曜、日曜を除いて毎日行われる。体育館の片方の籠球コートにいつでも7,80人の学生が集ってくる。彼等は水泳選手だけではなく、一般の学生もいるし、他のスポーツ選手も交っている。4時からの組と5時組とありその日の都合でどちらの組でやってもいい事になっている。毎週出席表が貼り出されるが、出席率は80%以上が多く100%も数人いた。最後まで辛棒した者の多くは水泳選手である。所謂“その場跳び”なるものから始まり腹筋と背筋を中心とした20数種類の体操が40分程、休むまもなく続けられる。しかし“腕立て”以外は僕にも出来た事であり体操の強度と云うか激しさとか云う点から見れば昭和26年度のYMCAに於ける水連の体操（原トレーナーだったと思う）の方が辛かったように思えた。これが終るとメ

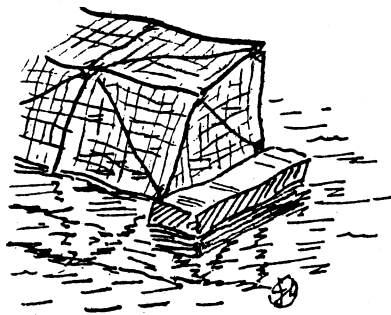
デスボールと称するものをやる。直徑一尺余りの革製のボールで重さは11ポンドから13ポンドである。これを両手で投げ合うのだが、足を投げ出して床に座って投げるときなど精一杯の力を入れなければ5米程離れた相手には届かない。力一杯投げ合う間には筋肉も発達しようが、時間のかかる割にこれが筋肉養成に最良の方法だとはまだ思えなかった。20分程してこれが終るとみんなは下のプールへ降りていく。聞いたら、バタ足1,000ヤード以上やるとのことだった。大プール(55ヤード)は中央で二分されているから多くの選手が一度に練習出来るし、他にも25ヤードプールがあるから泳ぐにはこと欠かない。11月終りまでの2ヶ月余り、彼等がバタ足ばかりやっていたかどうかは知らない。このボディビルなるものは泳ぎやすくするために身体を柔軟にするのではなくして、むしろ泳ぐに必要な筋肉を作る、あるいは強化するためのものではないだろうか。少くともチームワークのためとか身体のなまるのを防ぐためのものであるとか、そういった消極的なものではない。そしてこれは、比較的長い間続けられるということでもかなりの効果はあるはずである。さらに彼等の多くは、一方ではしばらくして新しい筋肉を作り乍らも、前シーズンの調子を維持するために、あるいは次のシーズンの準備としてプールで好きなだけ泳ぐことが出来るのであろうから、正規の練習を初めてからわずか2、3週間しかたたない12月中旬の試合にも、シーズン最高に殆んど近い記録で泳げるものあるいは当然かもしれない。このボディビルなるものは、しかし、エール大学の特徴である。他はこの期間中を水泳の練習だけで過しているか、他の方法で過しているとのことである。コーチキップス氏の言によれば、これがエール大学の黄金時代を創ったのだとのことである。土曜、日曜とわずか2日間休むだけですぐ練習に入る。練習はいきなりシーズン中のような激しさであり選手はまたそれが当然であるかのように泳ぎ切っていた。ロング、バタ

足、腕(自動車のチューブを刻んだ輪で両足を括る)ロングを各500ヤード位づつ泳ぐ。これが冬休みに入るまでの大体の練習法である。冬休みに入ると練習は1日2回となる。3週間ばかり1回の休みもなく泳ぎ続ける。しばらくすると試験期間になるので今のうちに泳ぎためておくのだ、とのことだったが、僕にはついてゆけなかった。こんな場合の彼等は実にタフというのか強いと思った。練習用大プールでロング1,000米、バタ足1,000米、腕1,000米を午前午後と繰返すのである。勿論同じ練習ではない。50米ダッシュ10回等々いろいろ混ぜることはある。時には100米(実際にはダッシュではない)を10回やることもあるがこれは制限時間(自由形で1分20秒)から考えてみてもこの目的は判らなかつた。コーチに聞いても答えなかつたが、選手たちも知らなかつたので僕にだけ教えなかつたわけではない。1月上旬から学校が初まると練習は再び1回となる。距離も幾分短くなり、ダッシュ等が次第に増えて来るのは我々のと似ている。しかし両足をゴム輪で括って泳ぐ"腕"の練習は2月一杯続けられる。大体500米前後である。概してアメリカの選手は腕が強いと思った。3月に入ると練習も次第に小刻みになるが、毎日似たような練習ばかり続けられる。個人的な練習は殆んど認められず、すべてコーチに従っているし、また任している。こうして期間中にも試合は殆んど毎週繰返される。多くが学校対抗であつて僅か4カ月以内に10数校もと試合をする。リーグ戦形式であるから毎週おびただしい程の試合がアメリカ中で行われるわけになる。NCAA(全米学生水泳連盟)では試合種目を次のように規定している。

- | | |
|---------------|------------|
| ①300ヤードメドレー | ⑥100ヤード自由形 |
| ②220ヤード自由形 | ⑦200ヤード背泳 |
| ③50ヤード自由形 | ⑧440ヤード自由形 |
| ④200ヤード個人メドレー | ⑨200ヤード平泳 |
| ⑤飛板飛込(1米又は3米) | ⑩400ヤードリレー |

日本と異なるのは得点が競泳に加算されることである。また300メドレーにはバタフライを認めながら個人種目として認めていないこと等の矛盾ものこっている。こうして学生選手権とその次の週の全米室内選手権を最後に冬季シーズンは終る。4、5月は選手にとってはもっとも暇な期間であるが、この期間でさえ練習は勿論出来る。ボディビルも再び続けられているそうだが、水泳選手はあまり大勢参加していないとのことだった。6月に入るといよいよ夏季

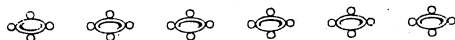
シーズンである。中旬から学校が終ると毎日6、7マイルも泳ぎ続けるとのことである。ときには晩まで1日3回泳ぐこともあるとのこと。我々には殆んど理解出来ない程長い、こうした距離は主としてロングとかバタ足1,000米とか、100米を10回やったり、腕を1500米やったりしているのである。彼等は真によく泳ぐ、それが長距離選手だけでなく、短距離や特種目の選手でも実に長く泳ぐ。そして彼らの多く、日本の選手の誰もが10,000米ぐらいづつ泳いでいるのだと信じ込んでいた幾人かは「古橋選手は毎日10マイルづつ泳いでいた。」と信じている。日大の選手が10,000米泳ぐとはよく聞かすが、この ten thousands がいつのまにか ten miles として誤り伝えられたものだと思う。だから、早稲田大学で普通の練習(1日1回)には2,000米程で充分効果を上げているといつてもなかなか信じようとしなかつたが、彼等の練習方法等を考えれば、あるいは当然のことかもしれないと思った。「我々は学校が急がしくて他の大学のような練習は出来ないのだよ」とむしろ誇らしげに話っていたエール大学の選手でさえこういう状態だから他は推して知るべしであろう。水泳のみならずあらゆる運動選手をも含めて彼等は彼等が活動しようとする場合は実に恵まれた環境にある。物的に恵まれていることはいまさら述べるまでもないが、コーチ制度も我々とは実に異っている。その是非については別としても、毎日プールに足を運んでいるコーチを有する大学チームは日本には幾つもない。コーチキップス氏の他に飛込コーチ、新人専門のコーチがいるし他にプールで働く人が2、3人もエール大学にはいる。こうした人達はコーチが職業であるが、これは他のどの大学でも同じことであり、又あらゆるスポーツについても同じことである。グリーンには2人のコーチが面倒をみていたし、ヨルジックにも専属のコーチがいる。テキサスの岡本選手にも彼だけのためにコーチがついている。従つて彼等の練習には自分で考えて泳ごうとはせず唯コーチに従うだけであるが、それだけにそのコーチが有能であれば、実に有利な条件となることは間違いない。こうしてあらゆる点に羨ましい程恵まれている彼等ではあるが、如何なる環境でも、どのような練習方法であってもそれを効果あらせるのは結局泳ぐ選手自身でしかないのだ、と負け惜しみのような気もしてならなかつた。(早大OB元バタフライ世界記録保持者)



動く

水球

について



鵜田武

日本に於ける水球界では最近の ヘルシンキ・オリンピックの藤田理事長の報告により、又昨年来日せるスモール氏のコーチを通して今日の世界の水球界が、フローティング・システムの如き半静止的な水球から動く水球に変遷している現状をはっきりと知らされた次第であります。

現在迄日本で行われて来た半静止的なフローティング・システムではフォワードとバックが完全に分離せられ、フォワードは3人で攻撃を受けもち、バックはあくまで防禦一点張りで直接攻撃に参加する事なく職能分担がはっきりと分かれていた水球でありました。而し現在各国で行われている動く水球とはバックとかフォワードと云った様なきめられた職能分担はなく何処のポジションでもプレイの出来る、オールランダーのプレイヤーをもち、スピードのある鋭い泳ぎと、良くコントロールされたボール・ワークとにより全員が攻撃に参加する。つまり味方チームがボールを保持したならば、最良の位置からシュートをなし得る時迄全員が動いてパスを交換しつつ、攻撃をする水球なのであります。而し今迄の半静止的な水球と違い、動き乍らパスをして攻撃する水球だからと云って無暗に動き回っていたのではスタミナを消耗するばかりでなく無秩序な動きではいたずらに混乱を招くのみで決して合理的なプレイとはならないと思います。そこでこの様な欠陥を是正して、より効果的に動き、スタミナの消耗を極力さける様な合理的なプレイをし、順序よく動いてパスを交換し、ゴール前に来た時には、最もよいポジションからシュートが出来る様な動き方をする必要があります。

ではここでこの様な動く水球と今迄の半静止的なフローティング・システムの水球との大きく違う点

を挙げてみますと、

- (1) 個人プレイによらず全員が動きによってチャンスを作り、その時によいポジションにいた者がシュートをする。これは今迄のフローティングによりシュートをしていたプレイとは大変違い結局オールランダーのプレイヤーを要求していることなのであります。
- (2) パスは常に角度とタイミングを重視して行う。これは今迄のフローティング・システムで行われていた半静止的な相手にパスを送るのとは違って動いてパスを交換する 関係上相手の位置をはっきりと見極め、正確なパスを送る必要があります。又動きによって導き出されてきたチャンスは瞬間的なものでありますから、そこへ正確なそしてタイムリーなパスが送られなければ、チャンスを生かしてシュートを決める事が不可能となるため、タイミングとパスする相手との角度の問題が生じて来るわけであります。

このパスの角度に関しては瞬間的に出来るチャンスに、タイムリーなパスを送るためには、相手と直角に近い角度が相手を見易く、正確なパスが出来る一番理想的な角度だと思えます。而しこれが一直線上にいる者へのパスは自分と相手との距離の判断がむずかしくなり、又相手の位置の判断も非常に困難となり、防禦側にカットされたり、又不正確なパスが送られ勝ちになります。

動く水球に於てパスが不正確であると云う事は作戦上の致命的な事実であり、チーム全体がタイムリーに動いて折角導き出したチャンスも無意味となり、又チーム全体の動きのタイミングにずれが生じ、ひいては逆モーションをつかれて敵に攻撃される恐れがあります。

(3) 合理的に動いて攻防転換をすみやかに行う。
つまり動く水球に於てはパスをし、又シュートをした後も決して止まる事なく次に入って来る者の邪魔にならぬ様、又シュートの決まらなかった時の事を考えて、シュートが終わった後は出足を使って速やかに防禦体勢への準備のためにも、又ゴール前の混乱を避ける為にもすみやかにゴール前から出て行き、次の体勢への準備をしなければなりません。

(4) ゾーン・デフェンスの必要性

即ち常に動いて攻撃をする場合、考えられる事は、パスの乱れから、又シュートのミスから逆モーションを取られた場合、今迄の半静止的な水球と違い動いているだけに相手との水あきは大きくなりノーマークを作り易く、マン・ツー・マン防禦の出来なくなる場合が出て来る事と思われまので、その時の事を考えてゾーン・デフェンス（地域防禦）を確立して攻撃側よりも少員数で守り切る、即ち、全員帰へって完全なる防禦体勢が出来上がる迄もちこたえる様ゾーン・デフェンスの方法をマスターする必要があります。及びゾーン・デフェンスからボールを味方チームが獲得した場合、素早い出足でノーマークを作り速攻にうつる 関係上前列のメンバーの配置にはチームの中でもスピードのある者を置き、速攻の場合の事を充分に考えて置く必要があります。

大体これら三つの事が今迄のフローティング・シ

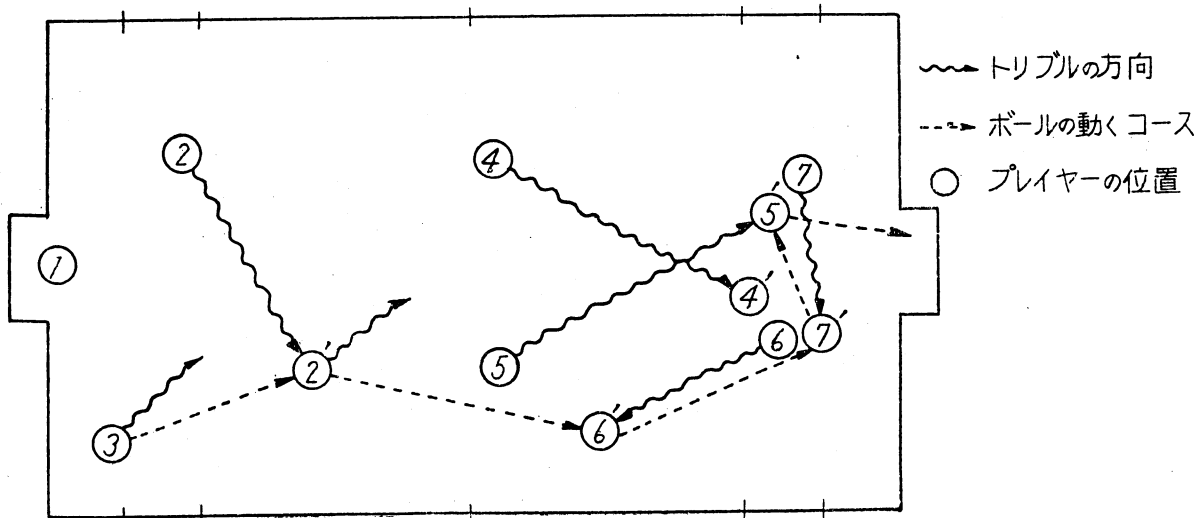
ステムと動く水球との大きく違っている点だと思えます。

そこで動く水球の攻撃方法としては以上の四つの要素を充分考慮に入れた上で一つのフォーメーションを組立てる事が必要であります。而しこの動く水球の攻撃方法にも2種類あると思えます。それは開始、再開の時にセンターボールを獲得してから攻撃して行く方法、即ち遅攻と、又防禦の体勢からボールを奪って相手の逆モーションをついて鋭い出足で飛び出しノーマークを作って攻撃をする方法即ち速攻との二つがありますが、ここでは前者の遅攻の一つのフォーメーションについて説明してみましよう。このフォーメーションの主旨は常に2人のプレイヤーで、ゴール前は攻撃を行い、ゴール・キーパーを左右に振り、ゴール・キーパーの逆モーションをついて攻撃をする。これは今迄のフローティング・フォワードがゴール・キーパーと1対1で攻撃するよりも、ゴール・キーパーの役割を余計に困難にさせ、少しの水あきを利用してパスを受けても楽にシュートが出来ると云う事なのです。ではチームの各メンバーがいかに動いて攻撃をするか、これには前に述べたパスの角度と、ゴール前では必ず2人で攻撃する事を考えて組立てて見ました。

味方チームがボールを保持した場合に③がゴール・ライン近くへ戻って全員が位置をとる時間をかせぎ、位置を取ったのを見きわめて②が矢印の方向へ動き③よりパスを受けへ⑥、⑦とパスを送り、⑤、④

(17頁に続く)

(第 一 図)



シーズン中の栄養献立

8~9月

三 枝 美 貴 子

8 月 の 献 立 1 週 間

| | 朝 | 昼 | 夕 |
|-----|---|---|---|
| 1 日 | トーストパン パン $\frac{3}{8}$ 斤 バター 大S 1 木イチゴシ ャム 大S 2 あじあんかけ あじ 大1匹 油 大S 1 小麦粉 小S 1 塩 少々 もやし 1つかみ にんじん 卵大 $\frac{1}{4}$ たまねぎ $\frac{1}{8}$ じゃがいも $\frac{1}{2}$ ケ さやいんげん 2本 だし汁 $\frac{3}{8}$ 合 しいたけ 1枚 油 大S $\frac{1}{2}$ 塩,正油,片栗 少々 半熟卵とフ 1ケ レンチサラダ トマト 小1ケ きょうり,酢,油 半本 | 塩 や き とび魚 1匹 おろし大根 大根 卵大1ケ 里いもごま 里いも 5ケ あんかけ 砂糖・正油 少々 ごま・片栗 い り 煮 がんもどき $\frac{1}{2}$ やきちくわ $\frac{1}{8}$ ごぼう 8cm 人参 卵大 $\frac{1}{2}$ 油 大S $\frac{1}{2}$ 正油・砂糖 少々 みょうが みょうがの子 2ケ 卵 と ち 卵 $\frac{1}{2}$ ケ 煮出汁 1.5勺 正油 少々 | さばの さば 大1切 マリネー さやいんげん 5~6本 じゃがいも 小1ケ 油 大S 3 新しょうが 少々 酢,塩,こしょう 少々 トマトケチャ 大S 2 ツブ 牛肉スープ ビーマン 大1ケ 牛肉 5匁 正油・片栗 少々 油 小S 1 水 $\frac{1}{2}$ 合 こしょう 少々 |
| 2 日 | みそしる しじみ 20ケ みそ 大S 2.5 い り 豚 豚肉 20匁 ごぼう 8cm 人参 卵大 $\frac{1}{2}$ ビーマン 2ケ 砂糖・正油 少々 味つけのり 6枚 生トマトとき トマト 大 $\frac{1}{2}$ ケ うりのマヨネ きょうり $\frac{1}{8}$ 本 ーズ和え マヨネーズ 大S 2 牛 乳 牛乳 1本 砂糖 大S 1 | しらす御飯 米 1合5勺 しらす干 ちよこ 2 さやいんげん 5~6本 紅しょうが 少々 かぼちや甘煮 油 小S 1 かぼちや・じ 大1.5 がいの 砂糖 大S 2 ひき肉卵揚げ ひき肉 15匁 卵 1ケ 玉葱 $\frac{1}{4}$ ケ かたくり粉 少々 塩・こしょう 少々 油 少々 | 冷 や つ こ とうふ $\frac{1}{4}$ 丁 花かつを 少々 しょうが・し そ きんぴら ごぼう 卵大1 ごぼう 卵大 $\frac{1}{2}$ 人参 小S 1 油 少々 砂糖・正油 魚のごま焼 魚 大1切 ごま 大S 5 キャベツ 中葉1枚 砂糖・正油 少々 |
| 3 日 | みそしる とうふ $\frac{1}{8}$ 丁 ねぎ 10cm 味噌 大S 2.5 オムレツ 卵 2ケ トマト $\frac{1}{2}$ ケ 塩・こしょう 少々 油 小S 1 ほうれん草 ほうれんそう 3株 クリーム煮 牛乳 大S 5 メリケン粉 大S 2 油 少々 | 焼 豚 焼豚 5枚 さとう 少々 正油 少々 油 少々 ビーマン油焼 ビーマン 3ケ 油 大S 1 塩・こしょう 少々 かぼちやあえ かぼちや 卵大3 じがいも $\frac{3}{8}$ ケ たまねぎ $\frac{1}{4}$ ケ にんじん 少々 こまきれ肉 5匁 卵 1ケ 塩・正油 少々 だし汁 $\frac{1}{4}$ 合 | ハンバーグ 合引肉 20匁 ステーキ 玉ねぎ $\frac{1}{4}$ ケ パン $\frac{1}{15}$ 油 大S 3 トマトケチャ 大S 3 ブ メリケン粉 大S 2 附合せ じがいも 1ケ (じがいも粉 ふきトマト) トマト 1ケ な す 油 焼 なす 2ケ 油 大S 2 正油又はソー ス 塩 茹 枝 豆 枝豆 25匁 |
| 4 日 | トーストパン パン $\frac{3}{8}$ 斤 バ タ ー 大S 2 ハムエツグ ハム 3枚 卵 2ケ キャベツ 大葉 $\frac{1}{2}$ ケ ビーマン 1ケ トマト 1ケ 油 小S 1 塩・こしょう 少々 | 煮 豆 大豆 $\frac{1}{8}$ 合 砂糖 大S 5 野菜干草あげ かぼちや 卵大2 さけいんげん 10本 しその実 少々 メリケン粉 大S 4~5 油 大S 2 大根 卵大1 正油・砂糖 少々 | ▲いかマリネー いか 半匹 玉葱 $\frac{1}{4}$ ケ トマト $\frac{1}{2}$ ケ きょうり 少々 酢・油 少々 かたくり 大S 1 油 小S 1 |

| | 朝 | 昼 | 夕 |
|----|--|---|--|
| 4日 | レモンミルク レモン汁 牛乳 砂糖 少々 1本 大S1 | 煮 ごぼう 人参 じゃがいも 豚肉 砂糖・正油 | 豚 汁 豚肉 味噌 にんじん もやし・紅し じゃがいも 油 20匁 大S2.5 卵大 5~6本 1ケ 大S1 |
| 5日 | みそ汁 あつあげ つまみな 味噌 なすのはさみ なす 揚 ハム 油 生卵 卵 はぜの つくだに 漬物 牛乳 牛乳 砂糖 1本 大S1 | 魚フライ さけ 油 粉 パン粉 マヨネーズ 粉ふき芋 じゃがいも 塩・こしょう きょうり トマト コンチャウダ ー とうもろこし の茹たもの たまねぎ ペーコン トマト みじん切パセリ スープ 牛乳 バター 粉・塩 | 冷シ中華そば 中華そば きょうり 卵 さばかんづめ もやし・紅し しょうが 正油・酢 砂糖 油 からし 肉ボール じゃがいも ひき肉 牛乳 玉葱みじん切 油 かたくり粉 塩 |
| 6日 | みそ汁 やきふ 玉葱 味噌 葉とうがらし つくだに のつくだに なつとう なつとう 葱 さけ入り たまご 炒り卵 さけかん キヤベツ 油 塩・こしょう ソース 大根おろし 大根 | ポイルド ポーク 豚肉 じゃがいも トマト 玉ねぎ サラダ油 塩・酢・こしょ 揚出しとうふ とうふ かたくり 油 だいこん しょうが 野菜サラダ キヤベツ きょうり りんご にんじん 玉ねぎ 干ぶどう マヨネーズ | さしみ まぐろ わさび 大根 なすとさやい なす んげん煮つけ さやいんげん つけ焼油あげ 油あげ 砂糖・正油 粉山しょう 卵とち 卵 葱 |
| 7日 | どじょう汁 どじょう とうふ 味噌 粉山しょう ピーマンの ピーマン つくだ煮 しょう油 しょうが つけ焼油あげ 油あげ 砂糖 正油 粉さんしょう じゃがいもの じゃがいも 甘煮 砂糖 正油 | まぐろ立田場 まぐろ かたくり粉 油 正油・砂糖 野菜南京あえ じゃがいも さやいんげん 落花生 正油・砂糖 夏みかん汁・塩 フレンチ サラダ きょうり キヤベツ トマト 酢・油 | ハム入り 茶わんむし ハム 卵 青味 スープ 塩・正油 なす南ばん揚 なす メリケン粉 青とうがらし 油 正油 白あえ とうふ きょうり しいたけ 芝えび 砂糖 酢 |

▲ いかマリネー。いかはきれいに洗って皮を取り、足を1本づつはなし、胴は輪切りにし水気をきって、かたくり粉をつけて油で揚げます。玉葱はみごん切りにし、塩を少しふりよくもみ水気をきります。トマトは皮と種を取ってあづき位の大きさにきり、きょうりはうすく小口切にし塩につけ、よくしぼって、酢油に以上の材料をまぜ合せます。

9月の献立1週間

| | 朝 | 昼 | 夕 |
|----|--|--|---|
| 1日 | トースト 食パン 大S 2杯 バター コロツケ じゃがいも 中1ケ にんじん 卵大1/2 ひき肉 15匁 玉葱 中1/2ケ 粉 少々 卵 1/2ケ 塩 少々 せんぎり キヤベツ 大葉1枚 ポタージュ トマト 中1ケ バター 大S 1 脱脂粉乳 2勺 | 豚カツ 豚肉 30匁 卵 1/2ケ 油 大S 1.5 パン粉 大S 2 メリケン粉 大S 1.5 キヤベツ 大葉1枚 野菜サラダ じゃがいも 中1/2ケ にんじん 卵大1/2 玉ねぎ 1/2ケ きょうり 1/2本 マヨネーズ 大S 2 きんぴら ごぼう 中10cm ごぼう にんじん 卵大1 油 大S 1 清 汁 とうふ 1/2丁 ねぎ 少々 | みそ汁 しじみ 15ケ みそ 大S 2.5 初たけめし 米 1合5勺 人参 卵大1/2 ごぼう 卵大1/2 初だけ 5匁 油あげ 1枚 さんま 1匹 からあげ かたくり粉 大S 1 油 大S 1 フレンチ 玉ねぎ 1/2ケ サラダ キヤベツ 1/2枚 トマト 1ケ 卵 1/2ケ 酢・油 |
| 2日 | みそ汁 じゃがいも 中1/2ケ いんげん 5~6本 にぼし 3匹 油あげ 2枚 おろし大根 少々 焼干 あじ 中1匹 煮 豆 1/2合 砂糖 大S 5 漬物 なす・うり 牛乳 | 酢豚 豚肉 25匁 じゃがいも 半ケ にんじん 卵大1 もやし 生大皿1/2 玉葱 中1ケ 干しいたけ 3ケ たけのこ 卵大1/2 かたくり粉 大S 5 油 大S 2.5 砂糖・正油・酢 ほうれん草 大皿1 ごまあえ ごま 大S 3 砂糖 しょう油 | ちらしずし さば 1切 にんじん 卵大1/2 かんぴょう 少々 油あげ 1枚 卵焼 1/2ケ 枝豆 1/2ケ 紅しょうが 少々 砂糖・酢 豚入り 豚多脂 15匁 のつべい汁 だいこん 卵大1 さんとも 卵大2 こんにやく 1枚 油あげ 1枚 ねぎ 1本 からあげ にぼし 5匹 甘辛煮 じゃがいも 1ケ 油 大S 1 正油・砂糖 |
| 3日 | パ※ン 食パン 大S 2 魚カレー煮 さば 大1切 玉葱 中1/2ケ ピーマン 2ケ トマト 中1ケ 油 大S 1.5 カレー粉 少々 塩・酢 少々 牛乳 牛乳 1本 つまみな つまみな 中皿1 ごまあえ ごま 大S 1 砂糖・正油 少々 | ハンバーグ ひき肉 20匁 玉葱 1/2ケ 卵 1/2ケ パン トマトケチャ 少々 プ 目玉焼 卵 2ケ 粉ふき芋 じゃがいも 中1ケ 玉葱ソテー 玉葱 中1/2ケ 野菜・酢油 あえ 1/2枚 卵大1/2 卵大1/2 大S 1 | みそ汁 わかめ 1/4束 油あげ 1枚 みそ 大S 1.5 ハムと 3枚 野菜サラダ じゃがいも 1/2ケ にんじん 卵大1/2 グリーンピース 大S 1 マヨネーズ 大S 2 さといも 3~4ケ ピーナツ あえ 大S 1 |
| 4日 | みそ汁 みそ 大S 2.5 大根 卵大1 里いも 小1 にぼし 3匹 なつとう なつとう 大S 4 卵 1ケ ねぎ 少量 なすソテー なす 中2ケ 油 大S 2 牛乳 牛乳 1本 砂糖 大S 1 | ロール キヤベツ 2枚 ひき肉 15匁 小麦粉 大S 1 玉ねぎ 1/2ケ トマトソース 大S 2 かば焼 さんま 半匹 醤油・砂糖 少々 枝豆塩ゆで 枝豆 小皿1 ずいき ずいき 中1本 酢のもの 油あげ 1/2枚 ごま 大S 1 酢 少々 | カレーライス 豚肉 15匁 じゃがいも 中1ケ 玉ねぎ 1/2 にんじん 卵大1/2 カレー粉 少々 メリケン粉 少々 半熟卵と 卵 1ケ トマト トマト 1ケ 漬物 |

| 朝 | | 昼 | | 夕 | | | | |
|---------------|--------------------------------|------------------------------------|--------------|--|---------------------------------------|------------------|--|--|
| みそ汁 | 玉葱 油あげ にぼし みそ | 1/4ケ 1枚 3匹 大S2.5 | 煮魚 | さば みそ 砂糖 | 大1切 大S2.5 大S1 | 肉入り混ぜ飯 | 豚肉 にんじん グリーンピース 油あげ 正油・砂糖 | 15匁 卵大1/2 大S1 1枚 少々 |
| かぼちやムニエル | かぼちや粉 | 卵大2 大S1 | きんぴら | 人じん ごぼう 油 | 卵大1 卵大1 大S1/2 | 天ぷら | あじ さつまいも いんげん | 小1匹 2切 8本 |
| ほうれん草ソーセージソテー | ほうれん草 ソーセージ 油 | 中皿1/2 3枚 大S1 | マカロニサラダ | マカロニ なまりぶし じやがいも きうり 玉葱 マヨネーズ | 10匁 8匁 小1ケ 1/2 1/2 大S3 | おろし大根 | 大根 | 卵大1 |
| 煮豆 | うずら 砂糖 | 1/2合 大S5 | 牛乳 | 牛乳 | 1本 | 清汁 | みょうが 卵 | 2ケ 1/2ケ |
| 野菜汁 | 里いも 大こん にんじん ねぎ みそ | 小2ケ 卵大1/2 卵大1/2 少々 大S3 | さばカレー フライ | さば 粉 カレー粉 パン粉 あげ油 | 大1切 大S1/2 少々 大S1 大S1 | ポークソテー | 豚肉 キヤベツ 油 塩・こしょう | 30匁 1/2枚 小S1 少々 |
| オムレツ | 卵 バター トマト | 2ケ 大S2 1/4ケ | なすさやいんげん煮つけ | なす いんげん 砂糖 正油 塩 | 大1 10本 大S1 | 野菜サラダ | じやがいも 玉葱 キヤベツ マヨネーズ サラダ菜 | 1/2ケ 1/2ケ 1/2ケ 大S2.5 少々 |
| つくだに | あさり こぶ | 10匁 5匁 | 白あえ | 人参 こんにやく しいたけ いんげん | 卵大1/2 5匁 2ケ 5本 | 牛乳 | 牛乳 砂糖 | 1本 大S1 |
| パン食 | パン バター | 1/2斤 大S2 | おはぎ | うるち米 もち米 | 5匁 1合 | さといもと 豚肉いり煮 | さといも 豚肉 生姜 かたくり粉 油 正油 塩・こしょう | 5ケ 15匁 少々 少々 大S2 少々 少々 |
| レバーつけ焼 | レバー きゅうり | 20匁 1/2本 | こしあん | こしあん きなこ ごま 砂糖 | 35匁 10匁 10匁 35匁 | 魚のごま焼 | あじ ごま 卵 | 1匹 大S2 1/2ケ |
| サラダ | じやがいも 玉葱 トマト マヨネーズ | 1/2ケ 1/2ケ 2切 | ひたし | ほうれん草 花かつお | 大皿1 少々 | ほうれん草の ピーナツあえ | ほうれん草 ピーナツバタ 正油・砂糖 清汁 | 大皿1/2 大S2 少々 |
| 牛乳 | 牛乳 砂糖 | 1本 大S1 | さけのてり焼 | さけ 正油・砂糖 | 1切 少々 | | | |

※ 魚カレー煮。魚は切身にして塩、こしょうする。玉ねぎは縦二ツ割にして、更に糸のようにきる。トマトは湯むきしてタネを出し細かく切ります。ピーマンも種を出して細くきりフライパンに油大さじ1杯を熱して玉ねぎを6～7分間こがさぬようにいため、トマト、ピーマンを加えてよくいため、カレー粉を加えます。別のなべに水2カップ、塩小さじ1杯酢大さじ1杯を加え玉ねぎを少し入れて煮たせ、魚の切身を入れ7～8分煮る。魚の煮汁はいれた野菜に入れ、サツ煮て調味する皿に盛った魚の上に野菜汁をかける。

栄養の補給元……

選手の練習量と栄養補給の如何に大切であるか最近特に高唱している田畑会長、各大学の先輩を集めてそのウンチクを傾けた後で曰く、5,000カロリーを摂らせる為に必要な資金は、結局諸君の熱意如何

にマツより他に方法はない。冗費をハブキ浄財を求めて後進の為出来る丈の努力をして呉れよ、とシンミリ頼み込まれては、並居るお歴々もいやだと言へず、只顔を見合せては眼ばかりパチクリ、無言の承認の段。



日本も愈々シーズンとなり早慶、三大学、日中戦等で開幕となったわけだが、海外に目を転ずると花々しい活躍をみせた豪州はシーズンが終って冬眠に入り、米国は室内から戸外に移って先づハワイのケオナカマ大会が始まり、欧州も同じく戸外シーズンに入ったわけである。半年後のメルボルンを控え、各国共最後のみがきをかける段階にきたが、さて欧米ではどんな選手が活躍しているだろうか。先づ欧州からのぞいてみよう。(宍道)

欧 州

○3月20日ブラッセルの33mプールで行はれた国際競技の結果は次の通りで、グレイエが返り咲いてかなりの記録を出している。

| | | |
|---------|--------------|--------------|
| 100m 自 | グネルード (諸) | 58.4 (諸新) |
| 200m 自 | R.ユネフェルト (瑞) | 2:10.3 |
| 100m 背 | G.ラルソン (瑞) | 1:06.9 |
| 100m バタ | R.フライベルイ (瑞) | 1:07.8 |
| 100m 平 | K.グレイエ (丁) | 1:09.6 (丁新) |
| 200m 平 | K.グレイエ (丁) | 2:35.0 (欧州新) |
| | L.コズマ (白) | 2:36.6 |

○4月26日 アイスランド対デンマークの対抗競技はレイキヤビクで次の好記録が出た。(25m水路)

| | | |
|--------|------------|-------------|
| 100m 自 | L.ラルソン (丁) | 58.7 |
| 200m 自 | L.ラルソン (丁) | 2:10.2 (丁新) |
| 100m 平 | K.グレイエ (丁) | 1:09.7 |
| 200m 平 | K.グレイエ (丁) | 2:40.8 |

○フランクフルトの競技会で、U.ラーデマッヘル (西独) は200m 平に2:35.1 (25m?) の欧州新記録を出した。(月日不明) 彼は往年の平泳の雄 E.ラーデマッヘルの息子である。

○6月10日ハンブルグで行はれた国際競技の結果は次の通り。(室内50m) タンベックの200m バタ2:25.8は相当のものである。

| | | |
|-----------|--------------|--------|
| 男子 100m 自 | 1. ニエキ (洪) | 58.5 |
| | 2. パウマン (独) | 59.5 |
| 200m 自 | 1. シロールド (独) | 2:10.5 |
| | 2. ニエキ (洪) | 2:11.1 |
| 400m 自 | 1. フッゲル (独) | 4:46.9 |

| | | |
|---------|--------------|---------|
| | 2. シロールド (独) | 4:47.9 |
| 1500m 自 | 1. フッゲル (独) | 19:38.7 |
| 100m 背 | 1. ミルシュ (独) | 1:07.5 |
| | 2. マギヤール (洪) | 1:08.1 |
| 200m 平 | 1. エンケ (独) | 2:43.1 |
| | 2. フリッチエ (独) | 2:43.8 |
| | 3. コズマ (白) | 2:44.0 |

ハンガリー第一人者ウタンは2:49.0で8着

| | | |
|---------|--------------|--------|
| 200m バタ | 1. タンベック (洪) | 2:25.8 |
| | 2. ウェーベル (独) | 2:35.8 |

| | | |
|---------|-----------------------|--------|
| 400m 混継 | 1. ハンガリー | 4:27.0 |
| | (マギヤール・ウタシ・タンベック・ニエキ) | |
| | 2. ライプツヒクラブ | 4:31.5 |

| | | |
|-----------|-------------|--------|
| 女子 100m 自 | 1. ギエンゲ (洪) | 1:06.4 |
| | 2. クロンブ (独) | 1:07.4 |
| | 3. ツオーケ (洪) | 1:07.7 |

| | | |
|--------|---------------|--------|
| 400m 自 | 1. ギエンゲ (洪) | 5:11.2 |
| | 2. セッケリー (洪) | 5:18.5 |
| | 3. キュンツエル (独) | 5:20.2 |

| | | |
|--------|---------------|--------|
| 100m 背 | 1. パヨール (洪) | 1:15.0 |
| | 2. シュナイダー (独) | 1:16.4 |
| | 3. シュミット (独) | 1:17.0 |

| | | |
|--------|--------------|--------|
| 200m 平 | 1. ハッペ (独) | 2:56.1 |
| | 2. キラーマン (洪) | 2:56.4 |
| | 3. フオークト (洪) | 2:57.7 |

| | | |
|---------|----------------|--------|
| 100m バタ | 1. セッケリー (洪) | 1:17.0 |
| | 2. リトメリッキー (洪) | 1:18.0 |
| | 3. ラングナウ (独) | 1:19.2 |

| | | |
|---------|-----------------------------|--------|
| 400m 混継 | 1. ハンガリー | 5:09.7 |
| | (パヨール・リトメリッキー・ギエルギヤック・ギエンゲ) | |

○スポーツ全体に亘って驚異的躍進をみせているソ連の水上市は我々の関心事であるが、昨年と今年の上半期に関する限り特に目をひく選手は出ていない。昨年の10傑表がソ連水連のフィラトフ氏から日本水連に来ているからその上位5傑をオリンピック種目についてあげてみると次の通りである。(長水路記録)

男子 100 m 自

| | |
|-------------|------|
| 1. バランディン | 57.7 |
| 2. エダシ | 58.2 |
| 3. スコモロフスキー | 58.3 |
| 4. ソロキン | 58.3 |
| 5. クレンノイ | 58.5 |

男子 400 m 自

| | |
|----------|--------|
| 1. アボビヤン | 4:46.0 |
| 2. プレス | 4:48.1 |
| 3. クレンノイ | 4:48.8 |
| 4. ボビッチ | 4:50.3 |

5. メルニコフ 4:51.8

男子1500m自

- 1. ラブリネンコ 18:49.6
- 2. プレ ス 19:12.4
- 3. ツオーリン 19:31.0
- 4. メツェロフ 19:31.2
- 5. ユルチェンコ 19:41.2

男子200m平

- 1. ゴロフチエンコ 2:40.5
- 2. ツアゼラ 2:41.3
- 3. ミナシュキン 2:42.6
- 4. ブーロフ 2:43.5
- 5. マカレンコ 2:43.9

男子200mバタ

- 1. ストルザノフ 2:35.8
- 2. フロロフ 2:36.4
- 3. ノビコフ 2:37.2
- 4. チエブラキン 2:39.1
- 5. ガルキューンヤ 2:39.2

男子100m背

- 1. ソロビエフ 1:07.5
- 2. クヴァルディン 1:08.2
- 3. セーロフ 1:08.2
- 4. ツロキシ 1:08.7
- 5. ノビコフ 1:08.8

今年になってからの好記録をひろってみると、ソロキンが短水路乍ら次のような成績をあげている。

- 100m自 56.2 (5月20日 レニングラード 25m)
- 200m自 2:05.9 (" " ")
- 400m自 4:34.0 (5月13日 " ")

以上は何れもソ連新記録である。上記以外のもの目ぼしいものは次の通り。

- 400m自 プレ ス 4:42.8 (ソ連長水路新)
- " アンドロソフ 4:46.4
- 1500m自 ラブリネンコ 19:00.8 (50m)
- " ユルチェンコ 19:09.2 (50m)
- 200m平 ゴロフチエンコ 2:40.5 (50m)
- 100m背 ソロビエフ 1:07.5 (50m)
- " ソロキン 1:08.3 (50m)
- 100mバタ ストルザノフ 1:03.6 (ソ連新) (25m)

○ 欧州で最もバランスのとれたチームを持つと言われるハンガリーは昨年から新人が出ず依然としてニエキ、ザボルスキー、タンベク、ウタシ、マギヤールと言った選手が活躍している。昨年の同国5傑をみると次の通りである。

男子100m自

- 1. ニエキ 57.0 (25m)
- 2. カルパティ 58.4 (50m)
- 3. ドモトル 58.6 (50m)
- 4. ドベイ 58.6 (33⅓m)

5. マギヤール 58.6 (33⅓m)

男子200m自

- 1. ニエキ 2:06.3 (25m)
- 2. ザボルスキー 2:10.3 (33⅓m)
- 3. テイル 2:10.8 (33⅓m)
- 4. ドモトル 2:12.3 (50m)
- 5. ケテシ 2:12.8 (33⅓m)

男子400m自

- 1. ニエキ 4:37.2 (25m)
- 2. ザボルスキー 4:37.7 (33⅓m)
- 3. テイル 4:41.7 (33⅓m)
- 4. ソルダス 4:42.8 (50m)
- 5. ドモトル 4:45.8 (33⅓m)

男子1500m自

- 1. ザボルスキー 18:32.0 (33⅓m)
- 2. ソルダス 18:56.0 (50m)
- 3. テイル 18:57.7 (33⅓m)
- 4. ケテシ 19:35.3 (33⅓m)
- 5. ニエキ 19:36.6 (50m)

男子200m平

- 1. ウタシ 2:37.5 (25m)
- 2. クンサギ 2:41.8 (25m)
- 3. ファビアン 2:42.2 (25m)
- 4. アラディ 2:46.1 (33⅓m)
- 5. クラウス 2:48.1 (33⅓m)

男子200mバタ

- 1. タンベック 2:24.5 (25m)
- 2. アツツ 2:32.4 (25m)
- 3. フェール 2:35.1 (33⅓m)
- 4. パップ 2:38.6 (33⅓m)
- 5. クツオラ 2:49.5 (33⅓m)

男子100m背

- 1. マギヤール 1:03.9 (33⅓m)
- 2. クリメント 1:07.2 (25m)
- 3. ミユラー 1:08.5 (33⅓m)
- 4. ギョンギョシ 1:08.6 (25m)
- 5. ソルテス 1:09.0 (33⅓m)

本年に入ってからには次のような好記録が出ているから米豪について一応の強敵とみておく必要がある。*印は25m水路、その他は50m水路。

- 100m自 マギヤール 57.4
- ドベイ 57.7
- ニエキ 58.0
- 200m自 ニエキ 2:08.8
- アツツ 2:10.5
- ドモトル 2:10.8
- テイル 2:12.1
- 400m自 ザボルスキー 4:35.7
- アツツ 4:41.0

| | | | |
|---------|---------|----------------|--------|
| | ニ エ キ | 4:41.9 | |
| | カ ニ ザ | 4:42.3 | |
| | ソ ル ダ ス | 4:42.6 | |
| 800m 自 | ザボルスキー | 9:42.4 | ハンガリー新 |
| 1500m 自 | ザボルスキー | 18:28.4 | 欧新 |
| | ソ ル ダ ス | 19:06.3 | |
| 100m 背 | マギヤール | 1:04.9 | |
| | ミュラー | 1:07.8 | |
| | コヴァックス | 1:08.1 | |
| 100m 平 | ウ タ シ | 1:13.9 | |
| | ク ン サ ギ | 1:14.0 | |
| 200m 平 | ウ タ シ | 2:41.5 | |
| 100m バタ | タンベック | *1:01.8 | 欧新 |
| | タンベック | 1:03.2 | |
| | ア ッ ツ | 1:03.2 | |
| 200m バタ | タンベック | *2:21.7 | 欧新 |
| | タンベック | 2:24.6 | |
| | ア ッ ツ | 2:25.9 | |

○ 西独選手権大会(室内50m)の主な成績次の通り。
(場所, 月日不明)

| | | |
|---------|-----------|---------|
| 200m 自 | ケ ー レ ル | 2:13.4 |
| 400m 自 | ケ ー レ ル | 4:47.9 |
| 1500m 自 | フ ッ ゲ ル | 20:06.7 |
| 100m 背 | ミ ル シ ユ | 1:08.3 |
| 200m 平 | ボーディング | 2:45.9 |
| 200m バタ | ウ エ ー ベ ル | 2:30.4 |

○ フランス

4月中旬オリンピック候補合宿記録会(25m)の成績は次の通り。

| | | |
|-----------|-------------|------------|
| 100m 自 | 1. ト ロ レ ー | 59.1 |
| | 2. エ ミ ナ ント | 59.1 |
| | 3. シ ャ ニ ー | 59.2 |
| 200m 自 | 1. ロ ー レ ン | 2:12.0 |
| | 2. プ リ オ ク | 2:12.0 |
| | 3. シ ャ ニ ー | 2:12.2 |
| 400m 自 | 1. コ リ ノ ン | 4:37.3 |
| | 2. ボ ア ト ー | 4:38.6 |
| 100m 背 | 1. ボ ゾ ン | 1:05.0 |
| 200m 平 | 1. ブ ル サ ール | 2:41.5 |
| 4月21, 22日 | 室内選手権大会 | 場所不明(33⅓m) |
| 100m 自 | 1. エ ミ ナ ント | 58.4 |
| | 2. ト ロ レ ー | 59.0 |
| | 3. プ リ オ ク | 59.5 |
| | 4. シ ャ ニ ー | 59.8 |
| 200m 自 | 1. ボ ア ト ー | 2:12.1 |
| | 2. コ リ ノ ン | 2:12.5 |
| | 3. プ リ オ ク | 2:12.8 |
| | 4. エ ミ ナ ント | 2:13.2 |
| | 5. シ ャ ニ ー | 2:13.2 |
| 800m 自 | 1. ボ ア ト ー | 9:42.2 |

| | | |
|---------|--------------|--------|
| | 2. コ リ ノ ン | 9:43.8 |
| 100m 背 | 1. ボ ゾ ン | 1:05.8 |
| 200m 平 | 1. ブ ル サ ール | 2:47.1 |
| | 2. マ グ ノ ロ ン | 2:48.0 |
| 200m バタ | 1. ビ ロ リ ー | 2:34.6 |
| | 2. ル シ ア ン | 2:37.7 |

以上の他に次のようなものがある。

| | | |
|--------|----------|---------------|
| 200m 自 | エ ミ ナ ント | 2:10.1 (25m) |
| | モンセレー | 2:10.9 (〃) |
| | コ リ ノ ン | 2:11.5 (33⅓m) |
| 100m 背 | ボ ゾ ン | 1:03.6 |
| | ゴ ア ノ ー | 1:05.5 (〃) |
| | クリストフ | 1:05.5 |

| | | |
|---------|-------|-----------------|
| 200m 平 | ブルサール | 2:38.9 (25m) |
| 200m バタ | ビロリー | 2:28.4 (25m) 仏新 |

○ ハンガリーの水泳専門家イムレ サロシ氏がレキップ紙にメルボルン・オリンピックの予想を書いているが仲々より所をついている。日本選手の名はあまり御存知ないのか個人名としては石本君しか挙げてない。

| 種目 | 準決勝 通過記録 | 最優秀 記録 | 決勝に残る選手 |
|-----------|-------------|----------------|--|
| 男子 100m 自 | 57.5 | 57.0 | ヘンリックス, クリーブランド, 日本選手, ニエキ |
| 〃 400m 自 | 4:35.0 | 4:29.0又は30.0 | ローズ, ロマニ, コンノ, 日本選手, ボアトー |
| 〃 1500m 自 | 18:32.0 | 18:20.0 | 名前をあげてない |
| 〃 100m 背 | 1:05.0 | 1:03.9又は1:04.0 | ボゾン, オヤカワ, タイラ, ブロックウエー, ソロ ピエフ, マギヤール(オヤカワを日本人としてある) |
| 〃 200m 平 | 2:38.0 | 2:35.0 | 日本選手, フリッチエ, グレイエ, ウタシ |
| 〃 200m バタ | 2:25.0 | 2:20.0又は21.0 | タンベック, 石本, ハリソン, ヨルジック, サイ モンズ |
| 〃 800m 継 | 8:35.0 | 8:28.0 | 日, 米, 豪, 仏, 洪 |
| 女子 100m 自 | 1:05.5 | 1:04.0 | ツオーケ, ギェング, リーチ, フレーザー, クラッ プ, ガステラース |
| 〃 400m 自 | 5:08.0 | 5:05.0 | クラブ, コック, ギェング, ツェケリー |
| 〃 100m 背 | 1:15.0 | 1:13.0 | バンアルフェン, ウイーレマ, ハリソン, パヨール |
| 〃 200m 平 | 2:56.0 | 2:52.0 | E.セケリー, キラーマン, デハーン, ハンセン, ガ イスラー |
| 〃 100m バタ | 1:15.0 | 1:12.0 | E.セケリー, R.セケリー, リトメリッキー, フォー ルビ, コック, ミュレン, ランゲナウ |
| 〃 400m 継 | 4:28.0 | 4:22.0 | 豪, 和, 洪 |

米国の状況は別項長沢二郎氏の記事によることにして、

前号以後の記録をあげておくにとどめる。

○ 全米女子室内選手権大会 4月5, 6, 7日フロリダの
デイトナビーチ (25y) で行われたが、カナダ、メキシコか
らも参加があり出場人員200名をこえる盛大さであった。
成績は次の通りであるが種目が我々日本人にとって珍しい
ので記録もピント来ない。

- 100y 自 1. W. ワーナー (米) 58.6
- 2. H. スチュワート (加) 58.9
- 3. J. ロサザ (米) 59.1
- 4. G. グラント (加) 59.5
- 5. N. ラメイ (米) 60.2
- 6. N. シモンズ (米) 60.6

- 250y 自 1. D. グレーイ (米) 2:45.4(全米新)
- 2. N. シモンズ (米) 2:50.2
- 3. H. ヒューズ (米) 2:50.4
- 4. W. ワーナー (米) 2:50.8
- 5. M. マハニー (米) 2:50.9
- 6. C. テイト (米) 2:53.3

- 500y 自 1. D. グレーイ (米) 5:55.8
- 2. H. ヒューズ (米) 6:00.8
- 3. S. ランスカ (米) 6:01.2
- 4. C. グリン (米) 6:01.8
- 5. L. リリー (米) 6:06.1
- 6. M. マハニー (米) 6:06.5

- 100y 背 1. C. コーン (米) 1:07.2
- 2. M. A. マルチノ (米) 1:07.8
- 3. A. マックレイノールズ (米) 1:08.0
- 4. C. オカーナー (米) 1:08.2
- 5. C. ギル (米) 1:08.2
- 6. M. マーフォ (米) 1:08.7

- 200y 背 1. C. コーン (米) 2:26.4(全米新)
- 2. M. A. マルチノ (米) 2:26.8
- 3. M. マーフォ (米) 2:31.9
- 4. L. トランブレイ (米) 2:31.9
- 5. A. マックレイノールズ (米) 2:33.7
- 6. C. オカーナー (米) 2:33.6

- 100y バタ 1. S. マン (米) 1:04.1(世新)
- 2. B. ブレイ (米) 1:05.1(世新)
- 3. M. J. シヤーズ (米) 1:05.1(世新)
- 4. N. ラメイ (米) 1:06.1(世タイ)
- 5. P. ハンコック (米) 1:08.2
- 6. J. ウイルソン (米) 1:08.3

世界公認記録はフオールビ (和) の1:06.1

- 200y バタ 1. S. マン (米) 2:26.3(全米新)
- 2. W. ワーナー (米) 2:32.5
- 3. G. モル (米) 2:35.7
- 4. P. ハンコック (米) 2:36.4
- 5. M. ハイブエ (米) 2:41.6

- 6. N. アイルス (米) 2:42.9
- 100y 平 1. M. J. シヤーズ (米) 1:12.2
- 2. C. マックケリガン (米) 1:13.0
- 3. M. ギレット (米) 1:14.9
- 4. S. ドル (米) 1:15.2
- 5. M. バードウエル (米) 1:16.5
- 6. M. L. エルセニウス (米) 1:18.0

- 250y 平 1. M. J. シヤーズ (米) 3:22.1(全米新)
- 2. M. ギレット (米) 3:24.8
- 3. M. L. エルセニウス (米) 3:30.1
- 4. C. マックケリガン (米) 3:30.5
- 5. S. ドル (米) 3:31.0
- 6. E. ドルホッシュ (米) 3:39.9

- 400y 個混 1. S. ランスカ (米) 5:14.9
- 2. S. マン (米) 5:21.9
- 3. L. リリー (米) 5:28.4
- 4. P. ハンコック (米) 5:29.1
- 5. B. モール (米) 5:34.6
- 6. S. サングスター (加) 5:36.2

- 400y 継 1. ラファイエット水泳クラブ 3:56.8(世新)
(クロッカー, ラブ, ヒューズ, ロサザ)
- 2. ワルターリード水泳クラブA 3:57.7(世新)
(マン, ギレット, ブレイ, ワーナー)
- 3. シカゴ水泳クラブ 4:04.7
(カナビー, アルダーソン, シモンズ, シヤ
ーウッド)
- 4. マルトノマ体育クラブ 4:08.1
(リリー, ムッカ, マーフィ, イーブレット)
- 5. ワルターリード水泳クラブB 4:09.6
(シヤーズ, アーノルド, ディーツ, グレーイ)
- 6. サンタクララ水泳クラブ 4:12.7
(マハニー, ウイルソン, テイト, サルツア)

世界公認記録はワルターリードクラブの3:59.2

- 400y 混継 1. ワルターリード水泳クラブ 4:27.4(世新)
(マン, シヤーズ, ブレイ, ワーナー)
- 2. ラファイエット水泳クラブA 4:33.9
(オカーナー, バードウエル, ロサザ, クロ
ッカー)
- 3. サンタクララ水泳クラブ 4:35.1
(サルツア, ドル, ウイルソン, マハニー)
- 4. マルトノマ体育クラブ 4:37.7
(マーフィ, マックケリガン, マーチン, イ
ーブレット)
- 5. インディアナポリス体育クラブ 4:37.9
(マルチノ, ブラックバーン, ハンコック,
モル)
- 6. ラファイエット水泳クラブB 4:44.3
(バードウエル, ラトキウィッチ, ウイッタ)

ル、ラブ)

世界公認記録はワルターリード水泳クラブの4:33.5

- 1 m 飛込
1. A. クーバー (米) 481.35
 2. T. ホートン (米) 434.20
 3. P. シールツ (米) 413.40
 4. M. クローク (米) 396.05
 5. I. マクドナルド (米) 394.60
 6. G. ベントン (米) 376.90
- 3 m 飛込
1. B. ギルダース (米) 416.85
 2. E. ホートン (米) 410.70
 3. P.J. メイヤーズ (米) 403.85
 4. J. スタノー (米) 389.20
 5. I. マクドナルド (米) 380.25
 6. J. アーウィン (米) 372.15

チーム得点

1. ワルターリード水泳クラブ 110
2. ロスアンゼルス体育クラブ 50
3. マルトノマ体育クラブ 34
4. インディアナポリス体育クラブ 30
5. サンタクララ水泳クラブ 20
6. シカゴ水泳クラブ 14

個人得点

1. S. マン 19
2. M. シヤーズ 18
3. W. ワーナー 15
4. D. グレーイ 14
5. C. コーン 14

○ 3月3日 オクラホマのノーマンで行はれた競技会で J. フアレルは220y自に2:06.7を出した。(水路25y)

○ 4月3日 エール大学の記録会で次の全米新が出た。

- 400m 継 3:44.1 R. オープリ正式 (55.2)
D. コーンウエル (57.1) D. アームストロング (56.3) H. ギデオンス (55.5)

この継泳は引きつゞき次の2名が泳いで600m 継に新記録が出た。

- 600m 継 5:39.1 G. ロビンソン (58.5) T. シエツコー (56.5)

○ 4月14日 マサチューセットのウインチエンドンで行はれた W. ヨルヂックの個人記録会で次の世界新が出た。

- 200m バタ W. ヨルヂック 2:16.7 (世新)
220 y バタ " 2:18.7 (世新)

これは6月1日のF.I.N.A 理事会で公認された。

○ 5月15日 新鋭 R. ムーアはカリフォルニア州スタンフォード (25y) で100y自48.9の世新を出した、彼は学生で19才、オリンピックのホープである。此の記録はF.I.N.A 理事会で公認された。

○ ケオナカマ記念水上競技大会は6月21日から3日間ハワイの100m 塩水プールで行はれたが成績は次の通りでウールジー、オヤカワなどのベテランが相変わらず強豪振りを発揮している。

- 50m 自
1. ウールジー 26.2
 2. ウイギンス
- 100m 自
1. ウールジー 57.3
 2. ムーア 58.1
- 200m 自
1. ウールジー 2:07.7
 2. カワチカ
- 400m 自
1. ウールジイ 4:43.7
 2. オネケア 4:44.5
 3. ブリーン 4:49.7
- 800m 自
1. オネケア 9:42.7
 2. ブリーン
- (着差 30m)

- 1500m 自
1. オネケア 18:49.1
 2. ブリーン 18:52.5

- 100m 背
1. オヤカワ 1:04.3 (全米新)
 2. マッキニー 1:06.9
 3. ウイギンス

- 100m バタ
1. ウイギンス 1:03.0
 2. ハリソン

- 200m バタ
1. ハリソン 2:33.4
 2. ホンダ

- 200m 平
1. ミキ 2:52.5

- 200m 背
1. マッキニー 2:26.7
 2. オヤカワ 2:26.9

○ 水上陣第一線の次の三選手が相次いで亡くなった。遙に哀悼の意を表したい。

ブローニング ヘルシンキにおける飛板飛込の優勝者であり、メルボルンのホープであった米国のデーヴィッド・ブローニングは海軍中尉として軍務に服していたが、3月13日カンサス州ラントウルでシエット機操縦中事故のため死亡した。享年24才。

彼は A. A. U. 戸外選手権大会に2度 (1949年1952年)、又室内選手権大会でも3度 (1951年, 1952年, 1954年) 優勝している。

テイラー ヘルシンキで100m背の3着になったシヤックテイラーも昨年の夏 (月日不明) 航空母艦から発艦の際飛行機事故で死亡した。

グローバー 6月6日短距離の雄、J. C. グローバーは練習中心臓マヒで死亡した。彼の100m自のベストレコードは57.7 (長水路) でオリンピックでの活躍を期待されていた。

○ 女子400y混継に世界新

米国の水泳クラブで世界的に有名なワルター、リードクラブは3月8日デトロイトのアスレチック、クラブのプール (25y) で女子400y混継に4:23.0の世界新を出した。

メンバーは次の通り。

- シエリー・マン マリー・シエーン・シヤーズ、
ベティ・ミュレン、 ワンダ・ワーナー、

旧記録は同クラブ、同メンバーの4:33.5であるから驚くべき飛躍である。この記録は6月1日のF.I.N.A理事会で公認された。

○ 米国のオリンピック予選 8月7日から10日迄デトロイトで行われる。

○ 米国A.A.U.は1955年度の全米チームとして次のメンバーを挙げている。

男子

50y 自 K. ドノファン (ニューヘブン S.C.)

100y 自 J. グローバー (ニューヨーク A.C.)

220y 自 F. コンノ (ハワイアン S.C.)

200m 自 " (")

440y 自 " (")

400m 自 " (")

1500m 自 G. ブリーン (コートランド 教育大)

背 泳 Y. オヤカワ (ハワイアン S.C.)

平 泳 R. マトソン (ノース・

カロライナ州大)

バ タ W. ヨルチック (ニューヘブン S.C.)

個, 混 ジョージ, ハリソン (パークレイ市クラブ)

飛板飛込 ゲリー・ハリソン (コロバス)

高 飛込 G. トビヤン (ロスアンゼルス)

個人遠泳 F. ブルネル (ヴェスパー S.C.)

団体遠泳 G. ホートレイ (ハンチントン Y.M.C.A.)

W. シュリーナー (")

J. ホートレイ (")

400y 継 J. グローバー (ニューヨーク A.C.)

H. ギデオンス (ニューヘブン S.C.)

D. クリーブランド (ハワイアン S.C.)

R. パタソン (ジョージア大)

(補) D. マッキンタイヤー (ノース・

カロライナ州大)

800m 継 F. コンノ (ハワイアン S.C.)

W. ウールジー (")

G. オネゲア (")

D. アームストロング (ニューヘブン S.C.)

(補) D. ローゼンタール (デルマール C.)

混 継 Y. オヤガワ (ハワイアン S.C.)

R. マトソン (ノース・

カロライナ州大)

A. ウイギンス

J. グローバー (ニューヨーク A.C.)

女子

100y, 100m 自 W. ワーナー (W. リード S.C.)

250y, 200m 自 S. マン (")

500y, 400m 自 D. グレーイ (")

880y, 800m 自 C. グリーン (ローダーデル)

1哩, 1500m 自 C. グリーン (")

100y, 100m 背 C. オカーナー (ラファイ
エット S.C.)

200y, 100m 背 C. コーン

100y, 100m バタ B. ミュレン (W. リード S.C.)

200y, 200m 平 M. J. シヤーズ (")

400y, 400m 個混 M. ギレット (")

飛板飛込 P. マコーミック (ロスアン
ゼルス A.C.)

高 飛込 J. アーウィン (パサデナ A.C.)

400y, 400m 混継 M. マーファイ (マルトノマ A.C.)

M. J. シヤーズ (W. リード S.C.)

B. ミュレン (")

W. ワーナー (")

400y, 400m 継 S. マン (W. リード S.C.)

W. ワーナー (")

J. ロバーツ (インディアナ

ポリス A.C.)

D. グレーイ (W. リード S.C.)

800y, 800m 継 S. マン (W. リード S.C.)

C. グリーン

C. テイト (サンタ

クララ S.C.)

J. ロサザ (コネチカット

女子クラブ)

個人遠泳 K. カーナリー (デトロイト)

団体遠泳 K. ニューボールド (リベラ C.)

M. J. ビックカード (")

A. ノーン (")

臺灣 はオリンピックで自由形の全部と背泳の金メダルを狙っているだけあってオフシーズン練習の熱の入れ方も特別のようである。

○ オリンピック候補の冬期トレーニングは、クイーンズランドのタウンズビルでH.ギャラガーコーチのもとに行はれるが、殆んど選手がこれに参加する。たゞC.ウエルドは学校の関係でプリズベーンで練習するようである。

又G.チャップマンとG.ウインラムはF.ギャスリーコーチについてシドニーの室内プール練習する模様である。

○ J.ヘンリツグスが選手権大会の110yで55.5を出したときの100mの途中計時が55.1だったと瑞典機関紙が報じているが若し真実とすれば、世界最高記録である。

○ 北シドニープール(55y塩水)でG.チャップマンが400m自で4:37.8を出した、途中時間は1:02.1, 2:12.1, 3:28.0でこれは彼のベストレコードである。

○ 又1月中旬ニューサウス・ウエールズ選手権でM.ローズが440y自で4:32.5を出したことは前号で報告したが、その途中400m自の正式計時は4:31.3であった。これ

はヘルシンキの決勝2位のコントと同じ記録で史上第2位のものである。

○その他

中 共 男子100m自 林 錦 珠 58.6 4月
(北京室内50m)

女子100m平 戴 麗 華1:25.4 6月30日
(上 海 50m)

南アフリカ 選手権大会の主な記録
(月日及プール長不明)

男子100m自 W. スチュアート57.4
(南 ア 新)

200m自 " 2:09.1
(")
400m自 " 4:42.5
(")

世界新記録の承認 6月1日、ローザンヌで開催されたF.I.N.A理事会で承認された世界新記録は次の通りである。日本から申請した分は問題なく承認されたが200mバタの石本、長沢の記録は共にヨルジックの2:16.7に及ばないために、最高記録とはならなかった。平泳は全種目古川の独占する処となり、その強力振りを遺憾なく発揮している。

男 子 之 部

| 種 目 | 時 間 | 氏 名 | 国 籍 | 場 所 | 水 路 | 月 日 |
|----------|---------|-----------------------|-----|----------|------|-----------|
| 100 y 自 | 48.9 | R. ムーア | (米) | スタンフォード | 25 y | 1956-5-19 |
| 100 y 自 | 49.0 | R. オーブリ | (豪) | ニューヘブン | 25 y | 1956-3-10 |
| 880 y 自 | 9:34.3 | M. ローズ | (豪) | シドニー | 55 y | 1956-1-18 |
| 1500 m 自 | 18:05.9 | G. ブリーン | (米) | ニューヘブン | 50 m | 1956-3-29 |
| 1760 y 自 | 19:40.4 | G. ブリーン | (米) | ニューヘブン | 50 m | 1956-4-5 |
| 100 y 平 | 1:01.4 | 古川 勝 | (日) | 東京 | 25 m | 1955-10-1 |
| 100 m 平 | 1:08.2 | 古川 勝 | (日) | 東京 | 25 m | 1955-10-1 |
| 200 m 平 | 2:31.0 | 古川 勝 | (日) | 東京 | 25 m | 1955-10-1 |
| 220 y 平 | 2:36.2 | 吉村 昌弘 | (日) | 東京 | 25 m | 1955-10-1 |
| 220 y 平 | 2:31.9 | 古川 勝 | (日) | 東京 | 25 m | 1955-10-1 |
| 100 y バタ | 54.4 | A. ウィギンス | (米) | コロンバス | 25 y | 1956-1-21 |
| 200 m バタ | 2:20.8 | 石本 隆 | (日) | 東京 | 25 m | 1955-10-1 |
| 200 m バタ | 2:19.3 | 長沢 二郎 | (日) | ニューヘブン | 25 y | 1956-3-14 |
| 200 m バタ | 2:16.7 | W.A. ヨルジック | (米) | ウインチェンドン | 25 y | 1956-4-14 |
| 220 y バタ | 2:21.6 | 石本 隆 | (日) | 東京 | 25 m | 1955-10-1 |
| 220 y バタ | 2:20.3 | 長沢 二郎 | (日) | ニューヘブン | 25 y | 1956-3-14 |
| 220 y バタ | 2:20.1 | 長沢 二郎 | (日) | ニューヨーク | 25 y | 1956-3-23 |
| 220 y バタ | 2:19.4 | 長沢 二郎 | (日) | ニューヘブン | 25 y | 1956-4-6 |
| 220 y バタ | 2:18.7 | W.A. ヨルジック | (米) | ウインチェンドン | 25 y | 1956-4-14 |
| 400 y 混継 | 3:46.0 | ノース・カロライナ, アスレチック・クラブ | (米) | ニューヘブン | 25 y | 1956-4-7 |

(W. ソンナー, R. ファッチェン, J. ネルソン, D. マッキンタイヤー)

女 子 之 部

| | | | | | | |
|---------|---------|-----------|-----|---------|------|-----------|
| 100 m 自 | 1:04.5 | D. フレーザー | (豪) | シドニー | 55 y | 1956-2-21 |
| 100 m 自 | 1:04.2 | C. ガステラース | (和) | アムステルダム | 25 m | 1956-3-3 |
| 100 m 自 | 1:04.0 | C. ガステラース | (和) | シダム | 25 m | 1956-4-14 |
| 200 m 自 | 2:20.7 | D. フレーザー | (豪) | シドニー | 55 y | 1956-2-25 |
| 220 y 自 | 2:21.2 | D. フレーザー | (豪) | シドニー | 55 y | 1956-2-25 |
| 440 y 自 | 5:07.2 | M. コック | (和) | ロンドン | 33½y | 1955-12-9 |
| 440 y 自 | 5:07.0 | L. クラップ | (豪) | シドニー | 55 y | 1956-1-7 |
| 440 y 自 | 5:06.7 | L. クラップ | (豪) | シドニー | 55 y | 1956-2-17 |
| 440 y 自 | 5:05.9 | L. クラップ | (豪) | シドニー | 55 y | 1956-2-18 |
| 800 m 自 | 10:30.9 | L. クラップ | (豪) | シドニー | 55 y | 1956-1-14 |
| 880 y 自 | 10:58.1 | L. デニース | (和) | ユートレヒト | 50 m | 1955-8-18 |

| | | | | | |
|----------|---------|--|-------------------|----------|------------|
| 880 y 自 | 10:34.6 | L. クラ ッ プ (豪) | シ ド ニ ー | 55 y | 1956-1-14 |
| 100 y バタ | 1:04.1 | S. マ ン (米) | デ イ ト ナ ビ ー チ | 25 y | 1956-4-7 |
| 100 m バタ | 1:13.2 | A. フ オ ー ル ビ (和) | ア ル チ エ ー | 25 m | 1955-8-26 |
| 100 m バタ | 1:13.1 | A. フ オ ー ル ビ (和) | フ ラ ー ル デ イ ン ゲ ン | 25 m | 1955-9-21 |
| 100 m バタ | 1:11.9 | A. フ オ ー ル ビ (和) | フ エ ル ゼ ン | 25 m | 1956-2-5 |
| 400 y 個混 | 5:10.5 | M. コ ッ ク (和) | ロ ン ド ン | 33 1/3 y | 1955-12-10 |
| 400 y 継 | 3:56.8 | ラフアイエット水泳クラブ (米) | デ イ ト ナ ビ ー チ | 25 y | 1956-4-6 |
| | | (J. ロサザ, L. クロッカー, B. ラブ, H. ヒューズ) | | | |
| 400 y 混継 | 4:30.5 | ワリターリード水泳クラブ (米) | デ イ ト ナ ビ ー チ | 25 y | 1955-8-19 |
| | | (S. マン, M. J. シヤーズ, W. ワーナー, D. グレーイ) | | | |
| 400 y 混継 | 4:30.2 | オランダチーム (和) | ロ ン ド ン | 33 1/3 y | 1955-12-9 |
| | | (J. ヴアンアルフエン, D. デレーウイ, A. フォールビ, C. ガステラース) | | | |
| 400 y 混継 | 4:23.0 | ワルターリード水泳クラブ (米) | デ ト ロ イ ト | 25 y | 1956-3-8 |
| | | (S. マン, M. J. シヤーズ, B. ミュレン, W. ワーナー) | | | |
| 400 m 混継 | 4:57.8 | ハンガリーチーム (洪) | ブ ダ ペ ス ト | 50 m | 1955-9-3 |
| | | (E. パヨール, E. セッケリー, R. セッケリー, K. ツオーケ) | | | |

上半期世界十傑 7月15日現在連盟に集った資料から上半期の世界十傑を作って見ると下表のようになる。これは坂本亮四郎氏が編集したものである。

(今回は男子のみ掲載) △塩水 ×碼 ○途中計時

100 m 自

長 水 路

| | | |
|---------------|----|------|
| J. ヘンリックス (豪) | △○ | 55.1 |
| G. チャップマン (豪) | △× | 56.5 |
| J. デヴィット (豪) | △× | 56.5 |
| M. ニエガス (ユーゴ) | △ | 56.7 |
| W. ウールジー (米) | △ | 57.3 |
| C. ウエルド (豪) | △ | 57.3 |
| L. マチャール (洪) | | 57.4 |
| 谷 訥 (日) | | 57.6 |
| G. ドベイ (洪) | | 57.7 |
| 古 賀 学 (日) | | 57.8 |

短 水 路

| | | |
|-------------|--|------|
| R. オーブリ (豪) | | 55.2 |
| V. ソロキン (ソ) | | 56.2 |

此の他リレーの途中計時として次のような参考記録がある。

| | | |
|-----------------|--|------|
| H. ギデオンス (米) | | 55.5 |
| D. アームストロング (米) | | 56.3 |
| A. エミナント (仏) | | 56.6 |

ヘンリックスの記録は瑞典機関誌の報ずるもので110yの途中計時である。

200 m 自

長 水 路

| | | |
|---------------|----|--------|
| G. チャップマン (豪) | △○ | 2:05.2 |
| J. ヘンリックス (豪) | △○ | 2:05.3 |
| M. ローズ (豪) | △○ | 2:06.9 |
| W. ウールジー (米) | △ | 2:07.7 |
| K. オハロラン (豪) | △○ | 2:08.6 |
| I. ニエキ (洪) | | 2:08.8 |
| J. デヴィット (豪) | △× | 2:09.3 |
| 谷 訥 (日) | | 2:09.8 |
| ゼロルド (東独) | | 2:10.5 |
| S. ザボルスキー (洪) | | 2:10.5 |
| J. アツツ (洪) | | 2:10.5 |

短 水 路

| | | |
|----------------|---|--------|
| W. ウールジー (米) | × | 2:04.7 |
| J. マッケヴィット (米) | × | 2:05.0 |
| V. ソロキン (ソ) | | 2:05.9 |
| D. ハンレー (米) | × | 2:05.9 |
| F.H. コノ (米) | × | 2:05.9 |
| J. ファーレル (米) | × | 2:06.7 |
| J. ショーゲンセン (米) | × | 2:06.9 |

チャップマンの記録は長水路世界最高

世界記録保持者ワードロップ (英) は今年は今全く振はず、此のリストにも出てない。

400 m 自

長 水 路

| | | |
|---------------|----|--------|
| M. ローズ (豪) | △ | 4:31.3 |
| S. ザボルスキー (洪) | | 4:35.7 |
| M. ガレッテイ (豪) | △× | 4:37.3 |
| G. チャップマン (豪) | △× | 4:37.8 |

| | | |
|----------------|---|--------|
| K. オハロラン (豪) | △ | 4:37.8 |
| G. マルチネッツ (コ) | △ | 4:39.9 |
| S. K. サントス (伯) | △ | 4:40.5 |
| G. ウインラム (豪) | × | 4:40.6 |
| J. アッツ (洪) | | 4:41.0 |
| I. ニエキ (洪) | | 4:41.9 |

短水路

| | | |
|---------------|---|--------|
| A. ロマニ (伊) | | 4:30.0 |
| G. ブリーン (米) | × | 4:30.1 |
| F. H. コノン (米) | × | 4:30.3 |
| W. ウールジイ (米) | × | 4:31.1 |
| V. ソロキン (ソ) | | 4:34.0 |

昨年好記録を出したモンセレー (仏) は調子わるく 4:50.0 が切れない状態である。

1500 m 自

長水路

| | | |
|---------------|---|---------|
| G. ブリーン (米) | | 18:05.9 |
| M. ローズ (豪) | △ | 18:20.8 |
| M. ガレッテイ (豪) | △ | 18:27.5 |
| S. サボルスキー (洪) | ○ | 18:28.4 |
| G. ウインラム (豪) | △ | 18:44.4 |
| J. オネケア (米) | × | 18:49.1 |
| 青木行義 (日) | | 18:51.0 |
| 池尻月男 (日) | | 18:57.8 |
| V. ラブリネンコ (ソ) | | 19:00.8 |
| 新宅七郎 (日) | | 19:01.4 |

上位4人は昨年第1位の大野の記録 18:29.4 を上廻っている。ブリーンの世界新記録は無条件に敬意を表したい。

100 m 背

長水路

| | | |
|---------------|---|--------|
| D. タイラ (豪) | | 1:04.0 |
| Y. オヤカワ (米) | ○ | 1:04.3 |
| L. ハーリング (新西) | | 1:04.6 |
| L. マジャー (洪) | | 1:04.9 |
| G. ボゾン (仏) | | 1:06.1 |
| 長谷景治 (日) | | 1:06.2 |
| クリストフ (仏) | | 1:06.3 |
| J. モンクソン (豪) | △ | 1:06.4 |
| 富田一雄 (日) | × | 1:06.5 |
| F. マッキニー (米) | △ | 1:06.9 |

短水路

| | | |
|-------------|--|--------|
| G. ボゾン (仏) | | 1:03.6 |
| G. コアノー (仏) | | 1:05.5 |
| クリストフ (仏) | | 1:05.5 |

タイラの 1:04.0 は長水路最高記録、ブロックウエー (英) ガルヴァオ (伯) 等はまだ顔を出してないが、オリンピックには出てくるものと思はれる。

200 m 平

長水路

| | | |
|----------------|--|--------|
| 古川勝 (日) | | 2:35.8 |
| 吉村昌弘 (日) | | 2:38.9 |
| A. ゴロフチエンコ (ソ) | | 2:40.5 |
| S. ウタシ (洪) | | 2:41.5 |
| H. ブルサー (仏) | | 2:41.5 |
| 太田勝 (日) | | 2:42.4 |
| 木村基 (日) | | 2:42.8 |
| V. スボシル (チェツコ) | | 2:43.0 |
| K. エンケ (東独) | | 2:43.1 |
| V. ミナシキン (ソ) | | 2:43.7 |
| アントンヤン (ソ) | | 2:43.7 |

短水路

| | | |
|-----------------|--|--------|
| K. グレイエ (丁) | | 2:35.0 |
| U. ラーデマッヘル (西独) | | 2:35.1 |
| L. コズマ (自) | | 2:36.6 |
| R. ファッチエン (米) | | 2:37.1 |
| G. デスミット (自) | | 2:38.0 |
| H. ブルサー (仏) | | 2:38.9 |
| H. フリッチエ (東独) | | 2:39.0 |

古川の実力は抜群である。吉村の記録も史上3位のもの。日本に来たグレイエ (丁) がカムバックしてあなどり難しい力をみている。

200 m バタ

長水路

| | | |
|--------------|---|--------|
| G. タンベク (洪) | | 2:24.6 |
| 石本隆 (日) | | 2:24.7 |
| J. アッツ (洪) | | 2:25.9 |
| M. メーゼル (西独) | | 2:33.0 |
| R. ピロリー (仏) | | 2:33.0 |
| A. ポベスク (羅) | | 2:33.0 |
| 養原友義 (日) | | 2:33.1 |
| G. ハリソン (米) | △ | 2:33.4 |
| 増永文昭 (日) | | 2:34.3 |
| G. ミドルトン (豪) | △ | 2:34.8 |

短水路

| | | |
|---------------|---|--------|
| W. ヨルジック (米) | | 2:16.7 |
| 長沢二郎 (日) | | 2:19.3 |
| G. タンベク (洪) | | 2:21.7 |
| M. メーゼル (西独) | | 2:24.0 |
| H. ウエーベル (西独) | | 2:24.5 |
| J. ネルソン (米) | × | 2:25.8 |
| R. ピロリー (仏) | | 2:28.4 |

総体的に記録は躍進している。石本、タンベクのベテランは別として西独の二人に養原、増永等の新人に着目したい。

日本水泳連盟機関誌

第112号

水 泳

10月発行予定

主 要 目 次

オリンピック代表選手の紹介
全日本選手権その他主要競技会観戦記
海 外 通 信
オリンピックに参加した先輩のアドバイス
代議員会議事録

B5判 年4回発行 頒価年 ¥300.

編集委員

(イロハ順 ◎印委員長)

伊藤 謹平 小川 道郎 ◎川田 友之 金田 平八郎 多治見 裕孝
高橋 静子 中村 雅明 上野 徳太郎 串田 正夫 藤田 明
小池 礼三 三枝 美貴子 菊地 章 宍道 洋一 島田 桃一郎
鈴木 祐一

日本水泳連盟
機 関 誌

水 泳

第 111 号

昭和31年7月25日印刷
昭和31年7月30日発行

日本水泳連盟

編集兼 藤 田 明
発行人

印刷所 株式会社 成島印刷所
東京都中央区日本橋本石町3の4
電話日本橋(24)1701・6509・7082

定 価 (年4回発行)
1年分 ¥300.- (予約申込者に限
り頒布)1ヶ年前金予約は郵送料不
要。

東京都千代田区丸ノ内2-2
丸ビル722区

発行並 日本水泳連盟
申込所
電話和田倉(20)3090・4885番
振替口座東京5178番

日本国有鉄道推薦旅館

日本交通公社協定旅館

日本高等学校選手権水上競技大会

選手指定旅館

東 大 正 門 前

文京区森川町一一七番地

太 栄 館

電話九二局一六八九・六二二六―八

文京区台町二七番地

鳳 明 館

電話九二局一一八一―五

文京区森川町九六番地

鳳 明 館 森 川 別 館

電話九二局八一七一―三

文京区台町一四番地

つ ね や

電話九二局〇八三〇・二五〇七・

四八〇一